Pioneer sound.vision.soul

AVデジタルサラウンド・アンプ

VSX-D511

メールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての「お客様オンライン登録」をお願いいたします。ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報等のご案内をさせていただきます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。

新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。

なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。

図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

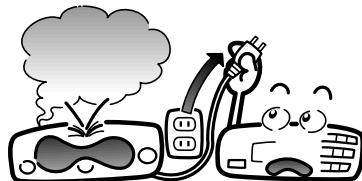
●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。

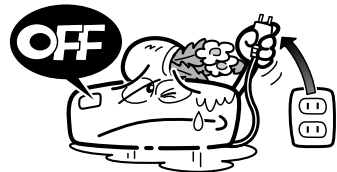
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

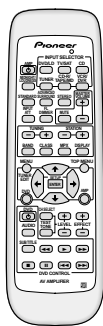
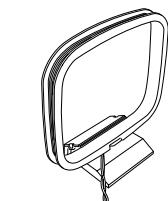
〔異常時の処置〕

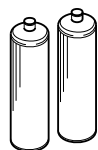
プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

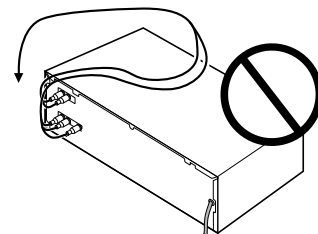
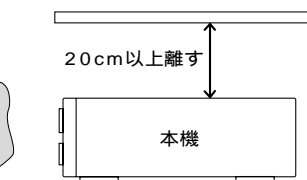
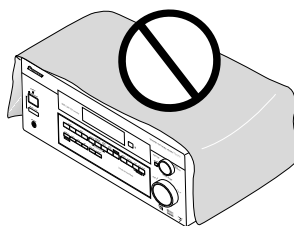
付属品を確認する

リモコン

AMループアンテナ

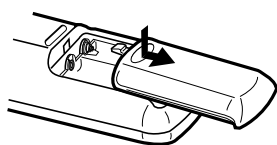
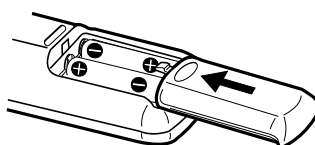
FMアンテナ

単3形乾電池(2本)
(IEC R6P)

- 取扱説明書(本書)
- 安全上のご注意
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内

設置について

注意

- 放熱のため本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対にお止めください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
- ラック等に設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。
- 本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスから磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合がありますのでご注意ください。

リモコンに電池を入れる

1

2

注意

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1ヵ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

メモ
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

目　次

「ホームシアター入門」は7～13ページになります。

準備

ホームシアター入門

各部の名称とはたらき

接　続

基本操作

いろいろな使い方

目　次

細やかな設定

ラジオ放送を聞く

その他

目　次

「ホームシアター入門」は7～13ページになります。

準備

ホームシアター入門

各部の名称とはたらき

接　続

基本操作

いろいろな使い方

目　次

細やかな設定

ラジオ放送を聞く

その他

本機の特長　～こんなことができます～

ホームシアターの実現

✣ ドルビーデジタル、DTSデコーダー搭載 (55ページ)

ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録された映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生し、映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽にお楽しみいただけます。

✣ MPEG-2 AACデコーダー搭載 (55ページ)

BSデジタル放送のサラウンド音声も、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

✣ ドルビープロロジックII回路搭載 (56ページ)

2チャンネルステレオ音声や、ドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもドルビープロロジックII回路を使ってマルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

バラエティ豊かなホームシアター

✣ 豊富なリスニングモード （33～34ページ）

映画や音楽ソースを多彩な音場モードでサラウンド再生することができます。

✣ ミッドナイトリスニングモード（36ページ）

夜中に映画などを小音量で聴いているときでも、大音量で聴いているときの臨場感を味わうことができます。

✣ ラウドネスモード（36ページ）

夜中に音楽を小音量で聴いているときでも、大音量で聴いているときと同じ効果で味わうことができます。

✣ バーチャルサラウンドバックモード（33ページ）

まるでサラウンドバックチャンネルから音が出ているかのようにデコードします。５本のスピーカーで6.1ch再生のような効果を味わうことができます。

簡単便利！！

✣ QUICK SETUP機能搭載 (12ページ)

複雑な設定を対話式に簡単に設定できます。

✣ 簡単リモコン付属

入力からリスニングモードまでワンタッチで呼び出せる簡単操作。

✣ 豊富な接続端子

豊富な接続端子を備え、光デジタル端子や映像のS端子にも対応しているため、テレビ周りの映像機器を一手に引き受けることができます。

環境に優しく

✣ 省エネルギー設計

本製品は、待機時（スタンバイ時）消費電力を1W以下に抑えた設計となっております。

ホームシアター入門　<基礎知識編>

ホームシアターを簡単に楽しむ前に、まず知っておきたいこと

ＤＶＤの標準音声フォーマットは、大きく分けて「**ドルビーデジタル**」と「**ＤＴＳ**」の２つが現在主流とされています。

● ドルビーデジタルとは．．　DOLBY DIGITAL

DVDの標準音声フォーマットのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされているドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。このソフトを、本機を通して再生することで臨場感あふれるマルチチャンネル再生をお楽しみいただくことができます。

● ＤＴＳとは．．　DIGITAL dts SURROUND

DTSとは、デジタルシアターシステム(Digital Theater Systems)の略で、5.1chのデジタル・サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

● ＤＶＤソフトの音声記録方式を確かめるには．．

DVDソフトのパッケージを確認してください。(全てのソフトに以下と同じ表示がされているとは限りません。)

ドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

日本語/5.1ch サラウンド　DOLBY DIGITAL

② 1.英　語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（5.1ch サラウンド）　DOLBY DIGITAL

→ 次ページ②をご覧ください。

ドルビーデジタル5.1chで記録されていないソフト

② 1.オリジナル(英語)/ドルビーサラウンド
2.日 本 語 吹 替　/ドルビーサラウンド

② 1.日本語（ドルビー・デジタル・ステレオ）
2.英語（ドルビー・デジタル・ステレオ）

→ 次ページ③をご覧ください。

英語音声のみドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

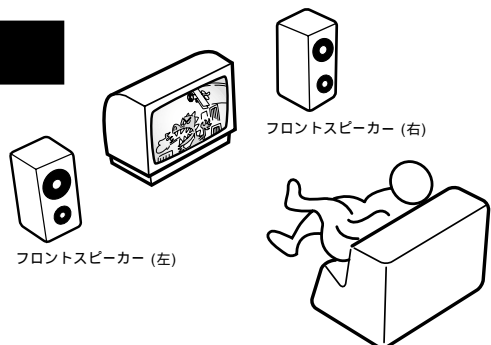
② 1.英語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（2ch サラウンド）　DOLBY DIGITAL

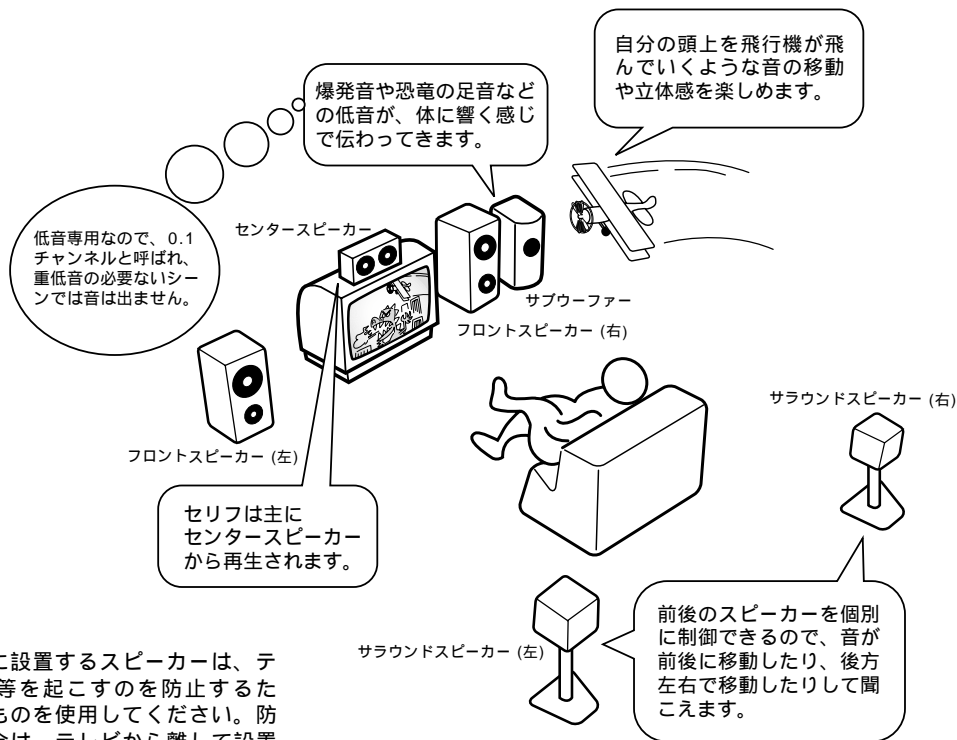
→ 1.のときは次ページ②を、
2.のときは次ページ③をご覧ください。

DTS サラウンドで記録されているソフト

日本語（DTS サラウンド）
→ 次ページ②をご覧ください。

① ステレオ再生とは．．

左右2 つのスピーカーから別々の音が再生されます。通常の音楽用ＣＤは、このステレオ２ｃｈで録音されていますので、本機のようにスピーカーが5 本とサブウーファーが接続されているシステムでも、音はフロントスピーカーからしか再生されません。

② ドルビーデジタル5.1chまたはDTSサラウンド再生とは．．

ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)またはDTSサラウンドで記録されているソフトを、全部で5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1ch独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。

自分の頭上を飛行機が飛んでいくような音の移動や立体感を楽しめます。

爆発音や恐竜の足音などの低音が、体に響く感じで伝わってきます。

低音専用なので、0.1チャンネルと呼ばれ、重低音の必要ないシーンでは音は出ません。

センタースピーカー

サブウーファー

フロントスピーカー (右)

フロントスピーカー (左)

サラウンドスピーカー (右)

セリフは主にセンタースピーカーから再生されます。

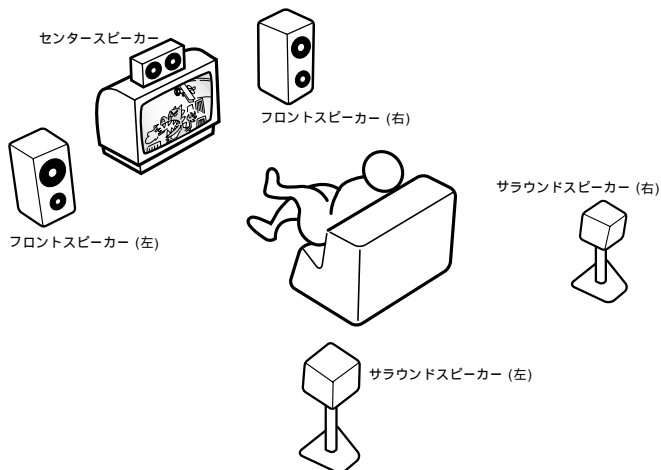
サラウンドスピーカー (左)

前後のスピーカーを個別に制御できるので、音が前後に移動したり、後方左右で移動したりして聞こえます。

- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

③ ドルビープロロジック再生とは．．

DOLBY SURROUND

ソフトのパッケージに、ドルビーサラウンド(DOLBY SURROUND)とかドルビーステレオ(DOLBY STEREO)と表記されているソフトを、5 本のスピーカーで再生することです。
ただし、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)やDTS サラウンドで記録されたソフトとは違い、ドルビーサラウンドやドルビーステレオで記録されているソフトは2 チャンネル信号です。この2 チャンネル信号からセンター、サラウンド(右、左)の音を作り出します。

さぁ、実際に次ページの<デジタルサラウンドへの近道>で接続、設定してホームシアターを構築してみましょう！

ホームシアター入門 <デジタル サラウンドへの近道>

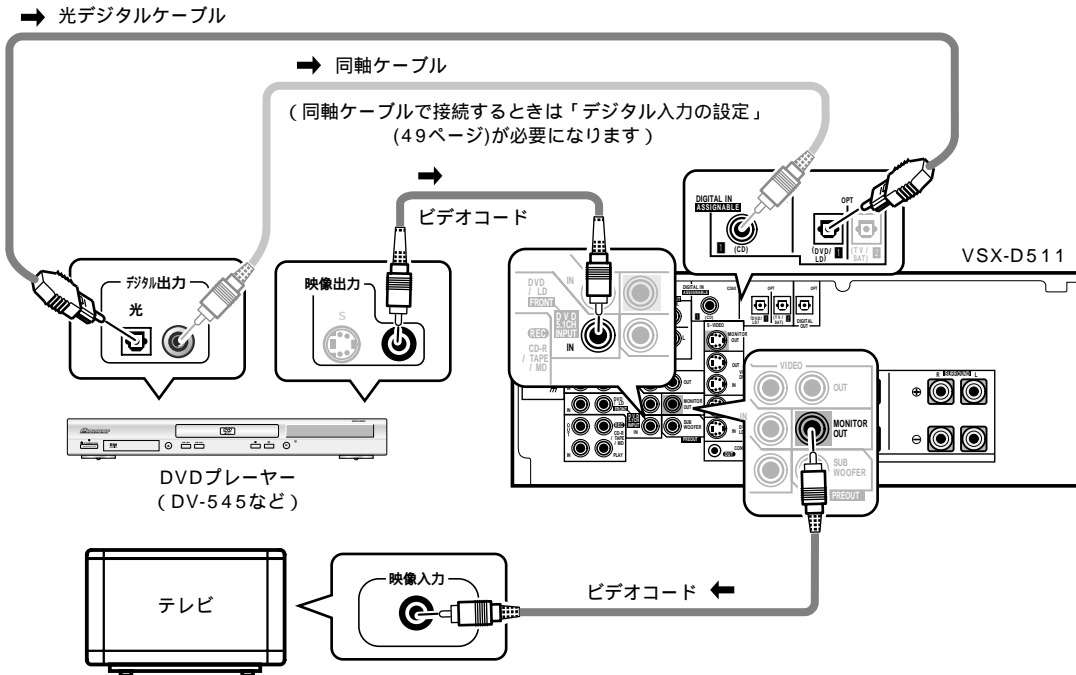
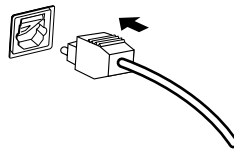
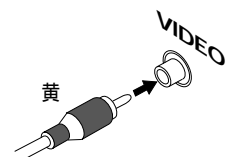
ここでは 1 から 6 までのステップで、ホームシアターを簡単に楽しむための手順を説明します。
よりよいサラウンドを楽しむためには最適なサラウンドの設定を行ってください。

DVDプレーヤーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

DVDソフトにはドルビーデジタルやDTS といったマルチチャンネル音声が収録されています。これらを再生するためにはデジタル接続が必要となります。

接続は「光デジタル端子で接続する」をご覧ください。お手持ちのDVDプレーヤーに光デジタル出力端子がない場合は同軸ケーブルで接続し、「デジタル入力の設定」（49ページ）をご覧になり設定を行ってください。接続はどちらか一方の接続のみを行ってください。**両方の接続を行う必要はありません。**

光デジタル端子で接続する

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の光デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、別売のビデオコード2本、光ファイバーケーブル1本をご用意ください。

■ 光ファイバーケーブル
- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。

■ビデオコード
一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

スピーカーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

スピーカー5本(フロントL / R、センター、サラウンドL / R)と、サブウーファーを接続してください。
(本機で最適なサラウンドを楽しむには、スピーカー5 本とサブウーファーを接続することをおすすめします。)接続にはスピーカーに付属のスピーカーコードか市販のスピーカーコードをお使いください。

VSX-D511

サブウーファーには別の接続方法もあります。詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

市販の
オーディオコード

市販の
スピーカー
コード

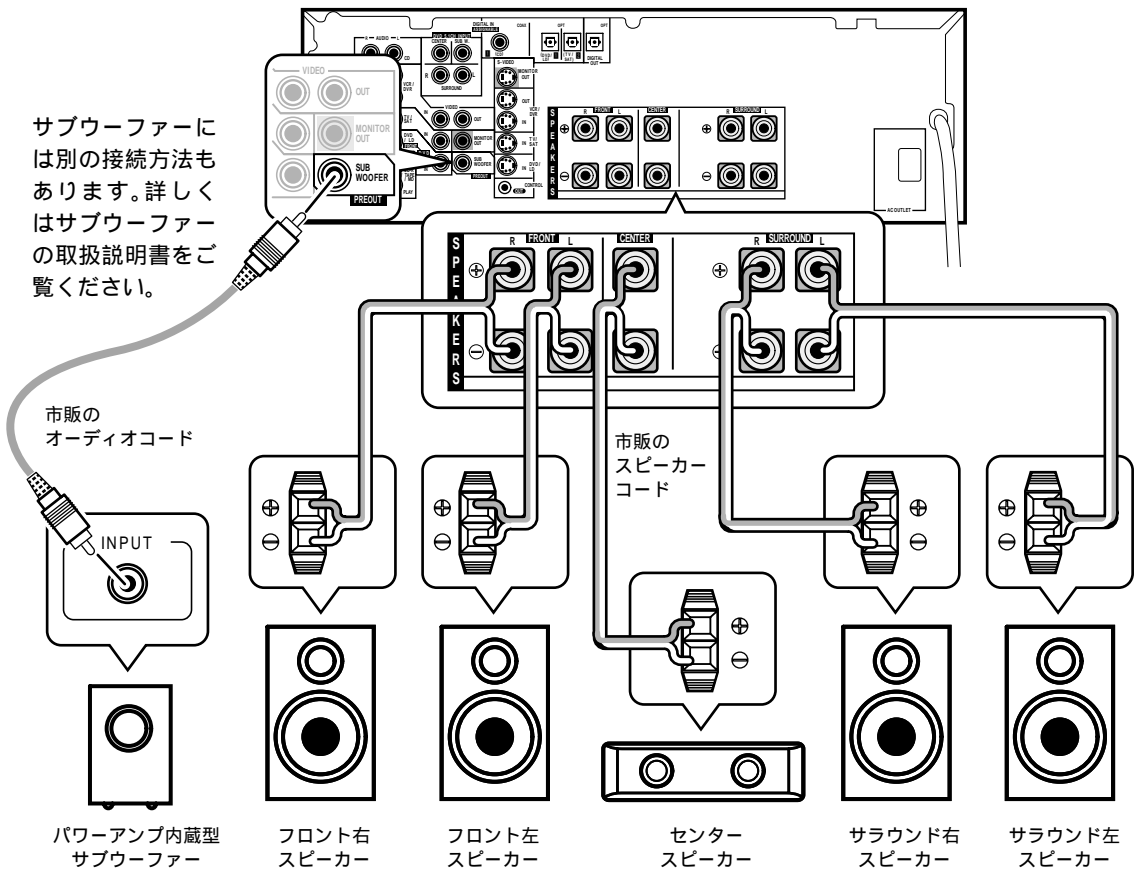
INPUT

パワーアンプ内蔵型
サブウーファー

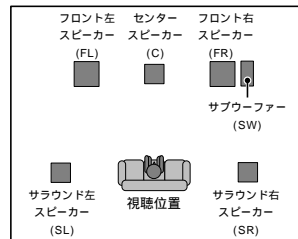
フロント右
スピーカー

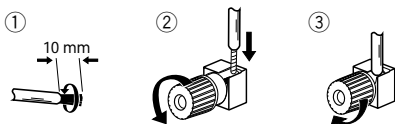
フロント左
スピーカー

センター
スピーカー

サラウンド右
スピーカー

サラウンド左
スピーカー

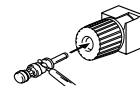
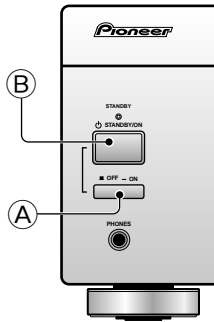
メモ

- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 接続するスピーカーの本数に応じて「スピーカーの設定」が必要です。接続に応じたスピーカーの設定がされていないとサラウンド再生がされません。特にセンタースピーカーを接続しない場合は、映画のセリフが出ない場合がありますので「簡単設定」(➡12ページ)または「スピーカーの設定」(➡44ページ)を参照して、スピーカーの設定を必ず行ってください。
- サブウーファーを接続しない場合は、「スピーカーの設定」(➡44ページ)を参照して、フロントスピーカーを大(LARGE)に、「サブウーファーの設定」(➡45ページ)を参照して、サブウーファーを無し(OFF)に設定してください。

上図のようにスピーカーを設置してください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

① 線をネジる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

3 設定の準備

Ⓑ
STANDBY
STANDBY/ON
OFF – ON
Ⓐ
PHONES

1　本体の電源コードをつないで、電源を入れる。

Ⓐボタンを押して、スタンバイインジケーターの点灯を確認します。 スタンバイインジケーターが点灯している状態でⒷボタンを押して、電源をONにします。

2　テレビの電源を入れ、テレビの入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定する。

4 DVDのサラウンド再生

1　DVDプレーヤーの電源をONにします(本機とテレビの電源がONであることも確認します)。

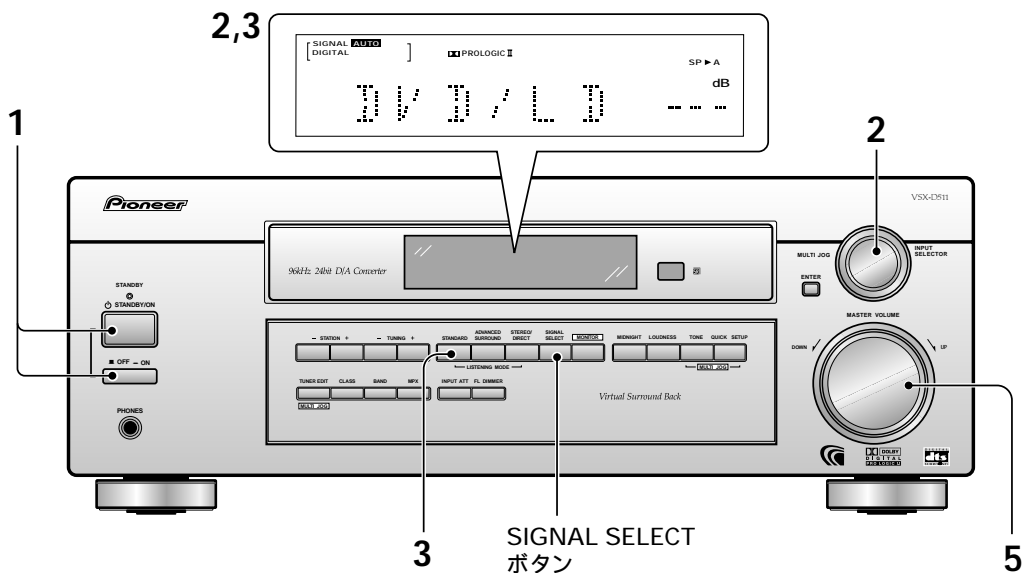
2　INPUT SELECTORを回して、本機の表示をDVD/LDにします。（ディスプレイ表示を下図の状態にします）

SIGNAL SELECT表示がDIGITAL(AUTO)になっていることを確認してください。表示がANALOGになっていたらSIGNAL SELECTボタンでDIGITAL(AUTO)に切り換えます。

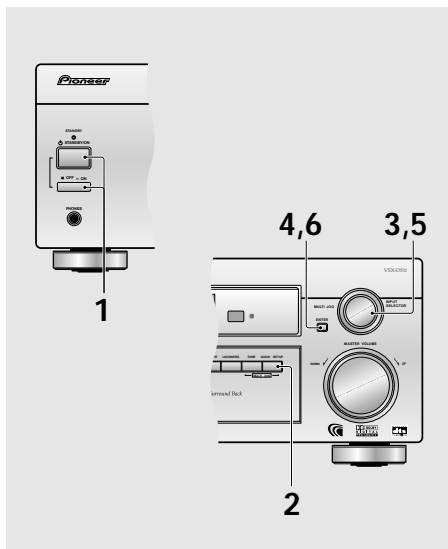
3　PRO LOGICⅡインジケーターが点灯していることを確認します。

点灯していないときはSTANDARDボタンを押してインジケーターを点灯させます。

4　DVDを再生します。

5　適当な音量になるまでMASTER VOLUMEをUP方向へ回します。

5 簡単設定(QUICK SETUP SYSTEM)

以下の手順の通りに設定を行うことで、快適なリスニング環境を簡単に設定することができます。簡単設定の中にあるルームタイプの設定ではS、M、Lの中からご自分の部屋のスピーカー配置に近いタイプを選ぶことで、スピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのズレを補正し、適切なサラウンド効果が得られるようなります。工場出荷時は「M」に設定されています。

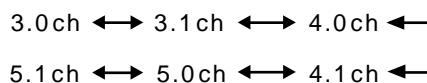
メモ 簡単設定を行った時点で「システムセットアップ」(➡41〜49ページ)の設定内容はリセットされますのでご注意ください。

1 本機の電源を入れる。

2 QUICK SETUP **簡単設定モードにする。**
スピーカーの選択になります。

3

回して選ぶ

接続しているスピーカーの本数を選ぶ。
マルチジョグを回すたび以下のように切り換わります。

3.0ch ←→ 3.1ch ←→ 4.0ch ←
5.1ch ←→ 5.0ch ←→ 4.1ch ←

それぞれの詳細は以下の通りです。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サブウーファー
3.0ch	○	○	–	–
3.1ch	○	○	–	○
4.0ch	○	–	○	–
4.1ch	○	–	○	○
5.0ch	○	○	○	–
5.1ch*	○	○	○	○

–(無し)
○(有り)

* S-HS22 スピーカーシステムをお使いの場合は 5.1ch の設定にしてください。

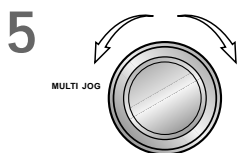
メモ

・ ルームタイプ設定機能は、各スピーカーまでの距離(➡46〜47ページ)を切り換えています。
これらの項目を更に細かく設定することにより、より快適なサラウンド空間をつくり出すこともできますが、これらの項目の設定と、簡単設定では、後から行った設定での値が優先されます。

4

スピーカーの本数を決定する。
ルームタイプの選択になります。

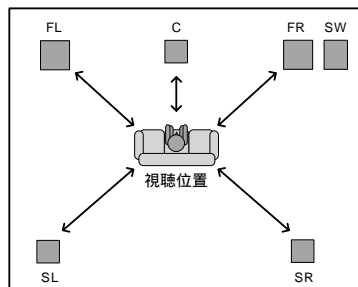
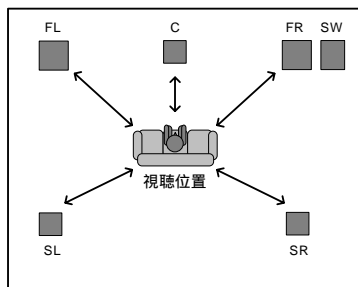
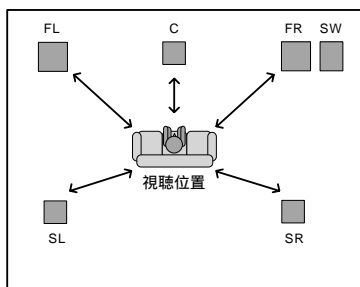
5

MULTI JOG

ルームタイプを選ぶ。

マルチジョグを回すたびS、M、Lが切り換わります。

S（サラウンドスピーカーが近いとき）

M（全てのスピーカーがほぼ等距離のとき）

L（サラウンドスピーカーが遠いとき）

ルームタイプにおける設定値

ルームタイプ	フロントスピーカーまでの距離	センタースピーカーまでの距離	サラウンドスピーカーまでの距離
S	3.6 m	3 m	1.8 m
M（工場出荷時の設定）	3.6 m	3 m	2.1 m
L	3.6 m	3 m	2.7 m

6

簡単設定を決定する。

ディスプレイに「CONFIRM YOUR SELECTION」と表示され、スピーカーの本数とルームタイプの設定確認が表示されます。
設定確認の表示が終了後、簡単設定は自動的に終了します。

メモ

- 簡単設定終了後に、「スピーカー出力レベルの調整」（➡50ページ）を行うことで、より快適なリスニング環境を設定することができます。

6 より快適にサラウンドを楽しむために

1

いろいろな音場効果を加えることができます

「いろいろな使い方」をご覧になってリスニングモードを選択したり（➡33～34ページ）、便利な音声再生用機能をお好みで選択してみてください（➡36～37ページ）。

2

快適にお使い頂くために細やかな設定を行うこともできます

細やかな設定（システムセットアップ）をご覧になり（➡41～49ページ）、必要に応じて細やかな設定を行ってください。

リモートコントロール

アンプコントロール部

本機を操作するときに使います。

AVアンプ ⏻ ボタン（30ページ）
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

ミッドナイトボタン/ラウドネスボタン（36ページ）
ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードをONにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合などでも、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます。

リスニングモード選択ボタン（34ページ）
STANDARD：
マルチチャンネル信号はそのまま忠実にデコード再生し、2チャンネル信号はドルビープロ ロジックIIでデコードするのでサラウンド再生をしたいときに効果的です。
ADVANCED SURROUND：
パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。5つのモードから好みの音場を選択することができます。
STEREO：
あらゆる入力信号をステレオ再生（左右2つのスピーカーのみでの再生）します。

Pioneer
INPUT SELECTOR
AMP
DVD/LD
TV/SAT
CD
MIDNIGHT/LOUDNESS
TUNER
CD-R/TAPE/MD
VCR/DVR
STANDARD
ADVANCED SURROUND
STEREO
MASTER VOLUME
INPUT ATT
FL DIMMER
MUTE

INPUT SELECTORボタン
本機の入力を切り換えます。

MASTER VOLUMEボタン（30ページ）
本機の音量を調節するとき押します。
MUTEボタン（40ページ）
一時的に音を消します。

FL DIMMERボタン（40ページ）
表示部の明るさを調整します。

INPUT ATTボタン
アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

チューナーコントロール部

チューナーを操作するボタンです。

TUNING－/＋ボタン（51ページ）
放送局を受信します。

BANDボタン（51ページ）
AM放送とFM放送を切り換えます。

CLASSボタン（52～54ページ）
メモリークラスA、B、Cのいずれかを選びます。

STATION－/＋ボタン（52～54ページ）
ステーション番号を選びます。

DISPLAYボタン
入力がTUNERのときに周波数とメモリーさせた名前を切り換えます。

MPXボタン（52ページ）
モノラル受信とステレオ受信を切り換えます。受信状態がよくないときはモノラルでお聞きください。

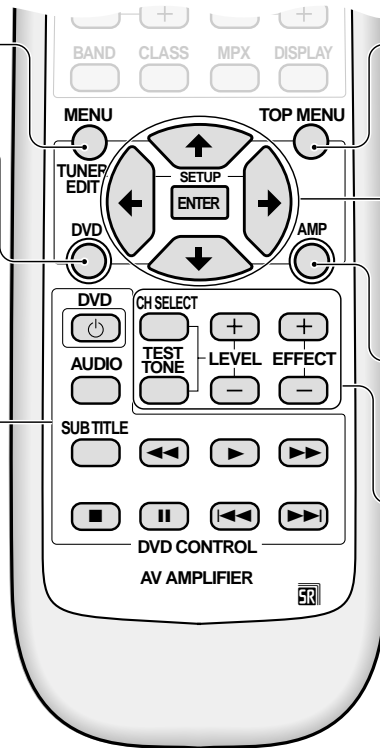
アンプまたはDVDコントロール部

本機またはDVDプレーヤーを操作するときに使います。
DVD CONTROLボタンはパイオニア製DVDプレーヤーのみ操作することができます。

MENUボタン
DVDのメニュー画面を表示させます。

TUNER EDITボタン（53ページ）
チューナーのステーション登録、ステーション名登録をします。

DVDボタン
リモコンをDVD操作モードにします。

DVD CONTROLボタン
リモコンがアンプ操作モードのときでも、パイオニア製品のDVDプレーヤーを以下のように操作することができます。
DVD⏻：DVDプレーヤーの電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。
AUDIO：ディスクに記録されている音声を選択します。
SUB TITLE：ディスクに記録されている字幕を選択します。
◀◀：押し続けると早戻し再生します。
▶：再生します。
▶▶：押し続けると早送り再生します。
■：再生を停止します。
❚❚：再生を一時停止します。
|◀◀：再生中のトラックの頭に戻ります。繰り返し押すとさらに前のトラックへ戻ります。
▶▶|：次のトラックの頭に進みます。繰り返し押すとさらに次のトラックへ進みます。

TOP MENUボタン
DVDのタイトルメニュー画面を表示させます。

⬆/⬇/⬅/➡/ENTERボタン
リモコンがアンプ操作モードのときは、セットアップで項目の選択、決定を行います。入力がTUNERのときはTUNER EDITボタンを押した後、TUNER EDITの操作を行います。リモコンがDVD操作モードのときは、メニュー画面での選択、決定を行います。

AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

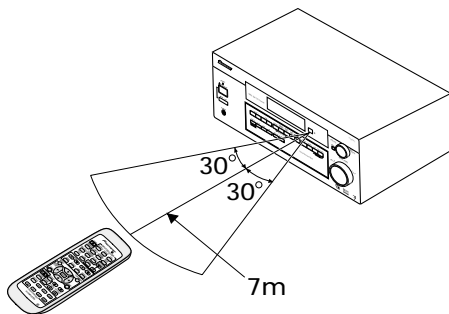
CH SELECTボタン（50ページ）
テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。

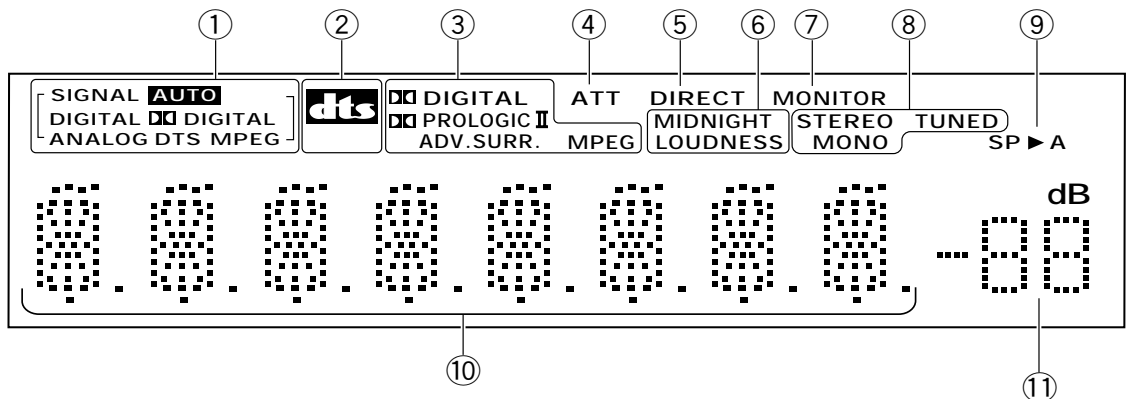
TEST TONEボタン（50ページ）
テストトーンを使って各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。

LEVEL＋/－ボタン（50ページ）
スピーカーレベル（CHレベル）の調整モードで、各チャンネルのスピーカーレベルを調整します。

EFFECT＋/－ボタン（35ページ）
スピーカーエフェクトレベルを調整します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

ディスプレイ

① **SIGNAL SELECTインジケーター**

DIGITAL:
デジタル音声信号が選択されているとき点灯します。

ANALOG:
アナログ音声信号が選択されているとき点灯します。

AUTO:
SIGNAL SELECTの設定をAUTOに設定しているときに点灯します。アナログ信号よりもデジタル信号を優先します。

ꓷꓷ DIGITAL:
ドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

DTS:
DTS信号が入力されると点灯します。

MPEG:
MPEG-2 AAC信号が入力されると点灯します。

② **DTSインジケーター**
STANDARDモードがONのときにDTS信号が入力されると点灯します。

③ **デコードインジケーター**

ꓷꓷ DIGITAL:
STANDARDモードがONのときにドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。ただし2ch収録のドルビーデジタル信号の場合ꓷꓷPROLOGICllが点灯します。

ꓷꓷ PROLOGICll:
STANDARDモードがONのときに2chソースを再生している時に点灯します。

ADV.SURR:
ADVANCED SURROUND処理をしているときに点灯します。

MPEG:
STANDARDモードがONのときにMPEG-2 AACの信号が入力されると点灯します。

④ **ATTインジケーター**
INPUT ATTがONのときに点灯します(アナログ信号を選択している場合のみ効果があります)。

⑤ **DIRECTインジケーター (P37)**
ダイレクト再生モードが ON のときに点灯します。

⑥ **MIDNIGHTインジケーター (P36)**
ミッドナイトリスニングモードが ON のときに点灯します。

LOUDNESSインジケーター (P36)
ラウドネスモードがONのときに点灯します。

⑦ **MONITORインジケーター (P39)**
MONITORモードがONのときに点灯します。

⑧ **TUNERインジケーター (P51〜54)**

STEREO:
ステレオで受信しているときに点灯します。

MONO:
MPXボタンを押してFM受信をモノラルに設定したときに点灯します。

TUNED:
ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

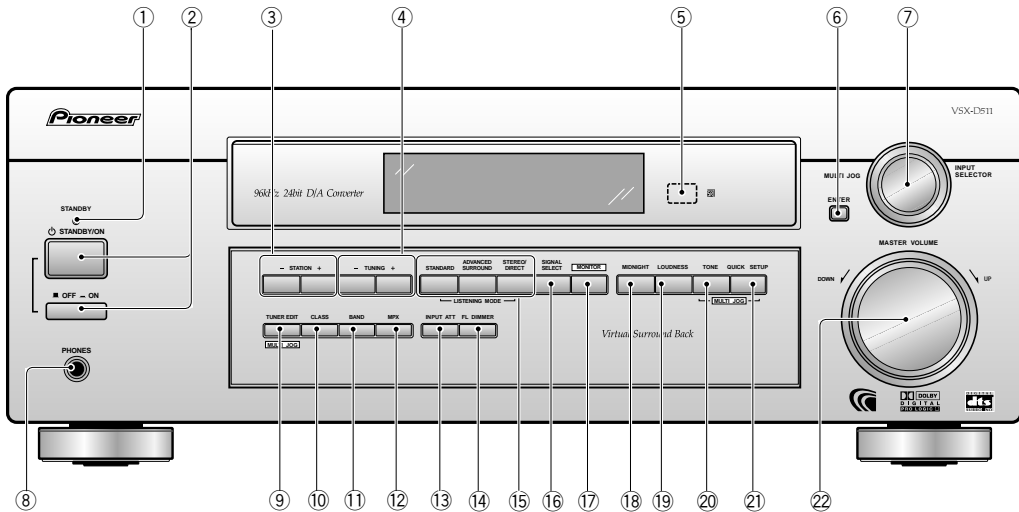
⑨ **スピーカーインジケーター**

SP ► A:
スピーカーで再生しているときに点灯します。

SP ►　:
ヘッドホンを挿入しているときに点灯します。

⑩ **キャラクター表示部**

⑪ **VOLUME(音量レベル)表示部**
現在の主音量レベルを表示します。音量レベルは、電源がオフにされても保持されています。ーー ーdBでMINレベルを表わし、ー 0 dBでMAXレベルを表わします。

フロントパネル

① **STANDBYインジケーター**
本機がスタンバイモードにあるとき点灯します。

② **主電源 ■ OFF ▬ ONボタン**
本機を使用するときは、最初にこのスイッチをONにしてください。

⏻STANDBY/ONボタン
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。

③ **STATION(＋/－)ボタン (P52～54)**
記憶した放送局を呼び出すときに押します。

④ **TUNING(＋/－)ボタン (P51)**
放送局を選択します。

⑤ **リモコン受光部**
本機をリモコンで操作する場合は、ここにリモコンを向けます。

⑥ **ENTERボタン**
設定項目などの決定を行います。

⑦ **INPUT SELECTOR/MULTI JOG**
入力を選択します。また、TONE、QUICK SETUP、TUNER EDITなどの設定にも使用します。

⑧ **PHONES(ヘッドホン)端子**
ヘッドホンを差し込む端子です。

⑨ **TUNER EDITボタン (P53)**
放送局を記憶するときに押します。

⑩ **CLASSボタン (P52～54)**
放送局を呼び出すときの分類を変更するときに押します。

⑪ **BANDボタン (P51)**
AMとFMを切り換えるときに押します。

⑫ **MPXボタン (P52)**
モノラル受信とステレオ受信を切り換えます。

⑬ **INPUT ATTボタン**
アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

⑭ **FL DIMMERボタン (P40)**
表示部の明るさを調整します。

⑮ **リスニングモード選択ボタン (P34)**
リスニングモードを選択するときに押します。

⑯ **SIGNAL SELECTボタン (P32)**
デジタルとアナログの入力を切り換えます。入力がDVD/LDのときはDVD5.1ch入力の選択も行います。

⑰ **MONITORボタン (P39)**
本機を使って録音しているソース機器の再生音と録音されている音を切り換えます。

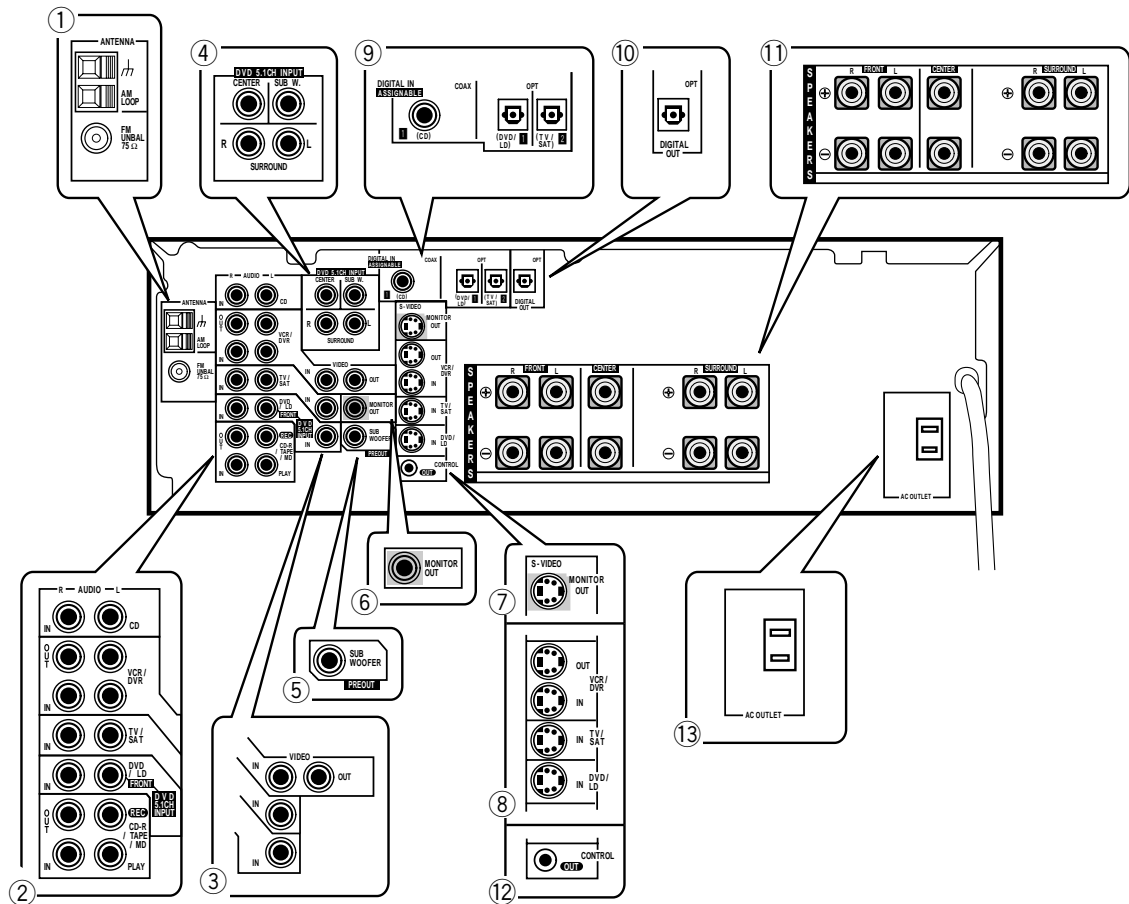
⑱ **MIDNIGHTボタン (P36)**
ミッドナイトリスニングモードのON/OFFを選択するときに押します。

⑲ **LOUDNESSボタン (P36)**
ラウドネスモードのON/OFFを選択するときに押します。

⑳ **TONEボタン (P37)**
トーンコントロールを調整するときに押します。押すたびにBASSとTREBLEが切り換わります。調整はTONEボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

㉑ **QUICK SETUPボタン (P12～13)**
QUICK SETUPを行うときに押します。設定はQUICK SETUPボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

㉒ **MASTER VOLUME**
本機の音量を調節するとき回します。

後面部

① **アンテナ端子**
付属のAM/FMアンテナを接続します。

② **アナログ音声入出力端子**
アナログ機器の入出力端子と接続します。

③ **VIDEO入出力端子**
ビデオ機器のアナログ映像入出力端子と接続します。

④ **DVD 5.1CH INPUT端子**
5.1CHアナログ出力の付いたDVDプレーヤーと接続します。FRONT L/Rは、②のDVD/LD端子に接続します。

⑤ **SUB WOOFER PREOUT端子**
パワーアンプ内蔵型サブウーファーと接続します。

⑥ **MONITOR OUT端子**
③のVIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

⑦ **S-VIDEO MONITOR OUT端子**
⑧のS-VIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

⑧ **S-VIDEO入出力端子**
ビデオ機器のS-VIDEO入出力端子と接続します。

⑨ **デジタル入力端子**
デジタル出力を持つ機器と接続します。端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル入力の設定が必要です。

⑩ **デジタル出力端子**
デジタル入力を持つ機器と接続します。

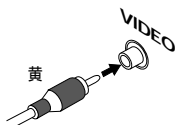
⑪ **スピーカー端子**
各チャンネル用のスピーカーと接続します。

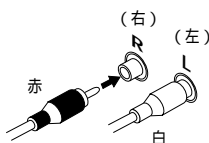
⑫ **コントロール出力端子（P27）**
コントロール端子の付いた複数のパイオニア製品を1つの機器のリモコン受光部を使って、集中コントロールするための端子です。

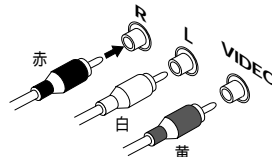
⑬ **AC OUTLET**
他機器の電源コードを接続します。

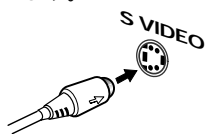
接続コードについて

■ビデオコード

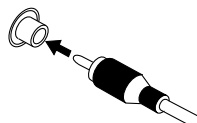
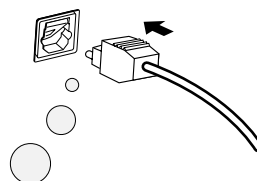
一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

■オーディオコード

オーディオ機器の接続に使用します。

■オーディオ/ビデオコード

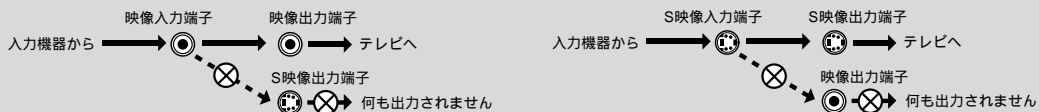
オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。

■Sビデオケーブル

映像信号のY とC の2 つの信号(色差信号)からなり、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続に使用します。

同軸ケーブル
(またはオーディオ/
ビデオコード)

光ファイバーケーブル

- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

映像信号について

テレビとの接続で映像信号は各入力機器と同じタイプのコードを使用してください。S映像入力端子に入力された信号はS映像出力端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。

ただしテレビによっては、S映像入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS映像入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーとTV（モニター）の接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

ドルビーデジタル、DTS信号を再生するにはデジタル接続が必要です。

DVDプレーヤー（DV-545など）

音声出力　右　左

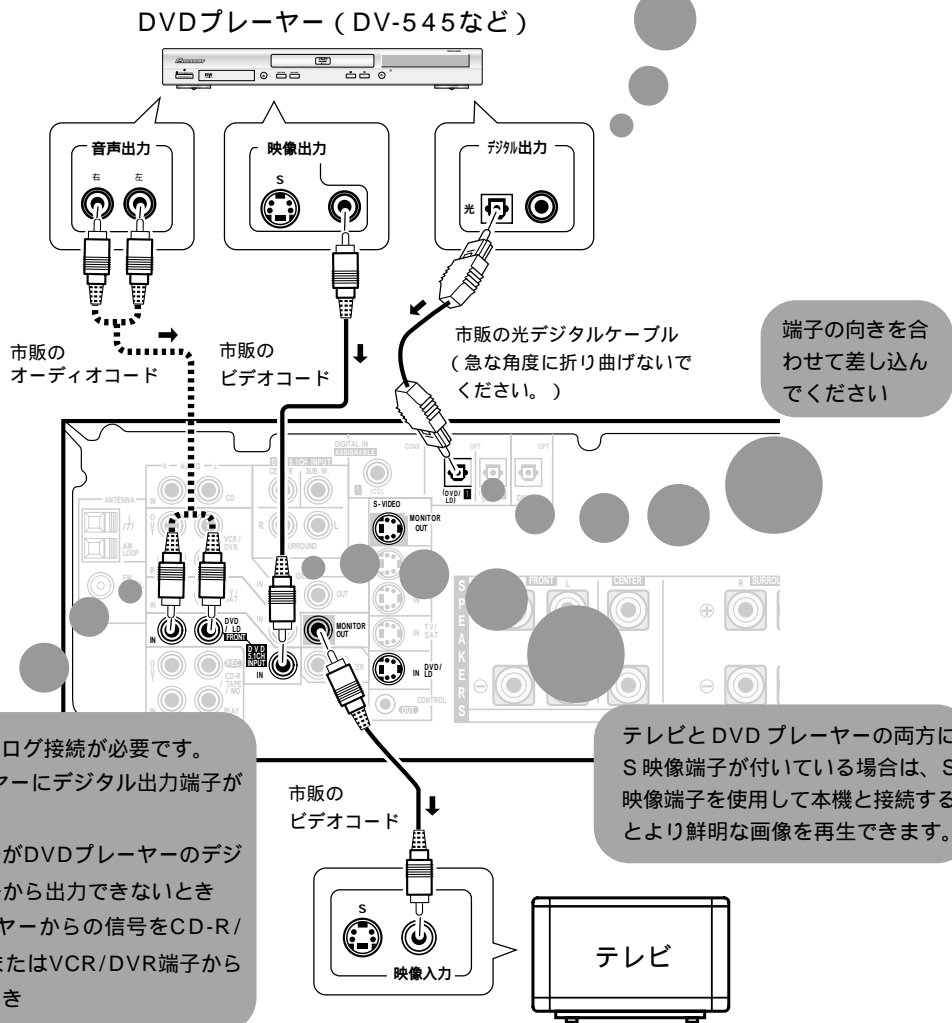
映像出力　S

デジタル出力　光

市販の
オーディオコード

市販の
ビデオコード

市販の光デジタルケーブル
（急な角度に折り曲げないで
ください。）

端子の向きを合
わせて差し込ん
でください

次の場合はアナログ接続が必要です。
- DVDプレーヤーにデジタル出力端子がない場合
- 聴きたい信号がDVDプレーヤーのデジタル出力端子から出力できないとき
- DVDプレーヤーからの信号をCD-R/TAPE/MDまたはVCR/DVR端子から出力したいとき

市販の
ビデオコード

テレビとDVDプレーヤーの両方にS映像端子が付いている場合は、S映像端子を使用して本機と接続するとより鮮明な画像を再生できます。

S　映像入力

テレビ

メモ

・ S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続し、テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。

TVまたは衛星チューナーの接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

BSデジタルチューナー内蔵テレビの場合

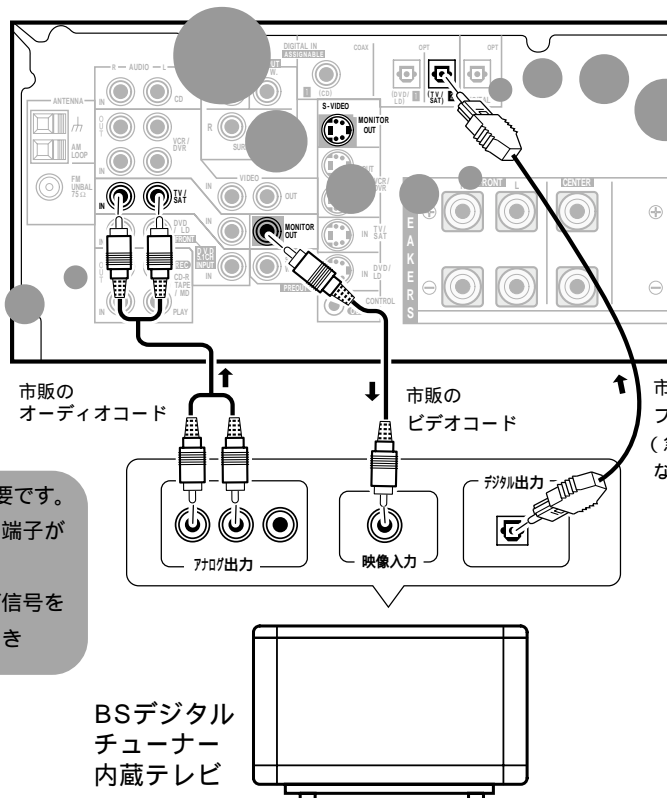
MPEG-2 AAC信号を再生するにはデジタル接続が必要です。

端子の向きを合わせて差し込んでください

市販の
オーディオコード

市販の
ビデオコード

市販の光デジタルケーブル
（急な角度に折り曲げないでください。）

アナログ出力

映像入力

デジタル出力

**BSデジタル
チューナー
内蔵テレビ**

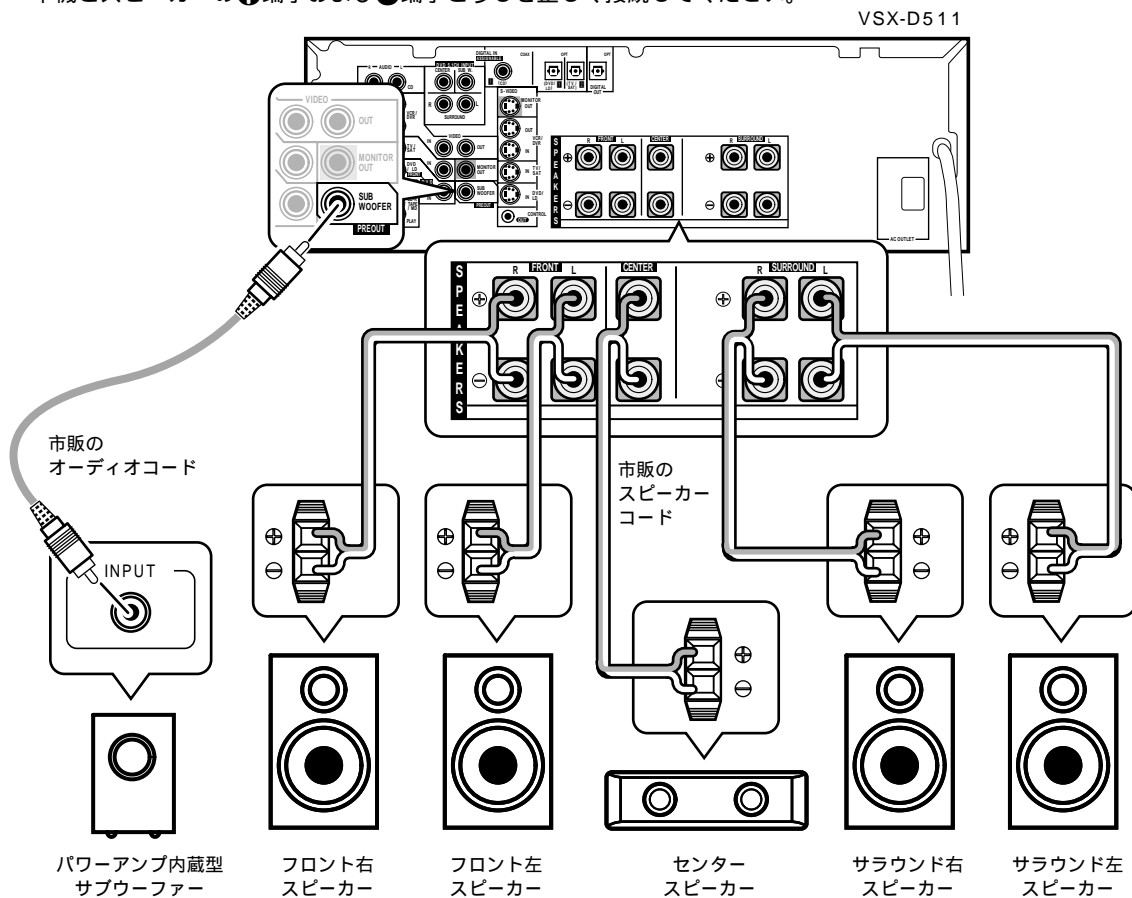
次の場合はアナログ接続が必要です。

- チューナーにデジタル出力端子がない場合
- 地上波放送などのアナログ信号を本機を通して楽しみたいとき

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、BSデジタルチューナー内蔵テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。

スピーカーの接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

- センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーファーのいずれかを接続しない場合は、設定（➡41ページ）が必要になります。
- スピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 本機とスピーカーの⊕端子および⊖端子どうしを正しく接続してください。

VSX-D511

VIDEO OUT
MONITOR OUT
SUB WOOFER
PREOUT
SPEAKERS
FRONT R L
CENTER
SURROUND R L
AC OUTLET

市販の
オーディオコード

INPUT

市販の
スピーカー
コード

パワーアンプ内蔵型
サブウーファー

フロント右
スピーカー

フロント左
スピーカー

センター
スピーカー

サラウンド右
スピーカー

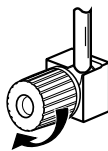
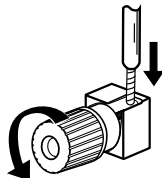
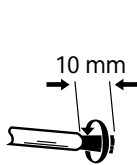
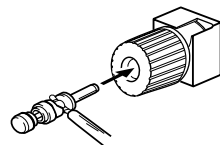
サラウンド左
スピーカー

■SPEAKER（スピーカー）端子

① 線をネジる。

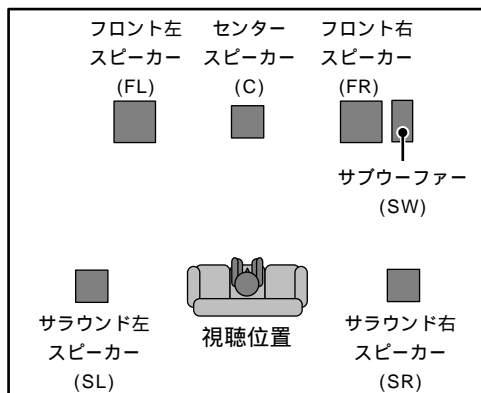
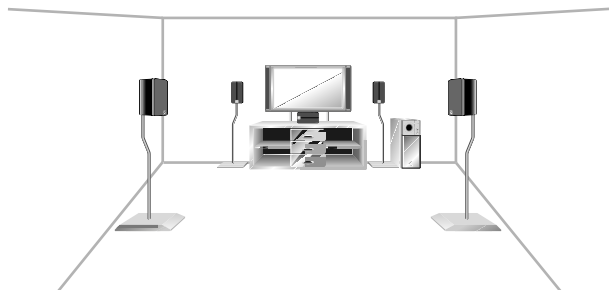
10 mm

② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。

③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます（詳しくはプラグの説明書をお読みください。）

メモ

スピーカーコードの芯線をよじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してよじってください。はみだした線があると、その線が隣りのチャンネルのスピーカーコードやリアパネル（後面の金属部分）にショート（接触）し、本機の電源が入らない場合があります。

スピーカーの配置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを配置してください。

メモ

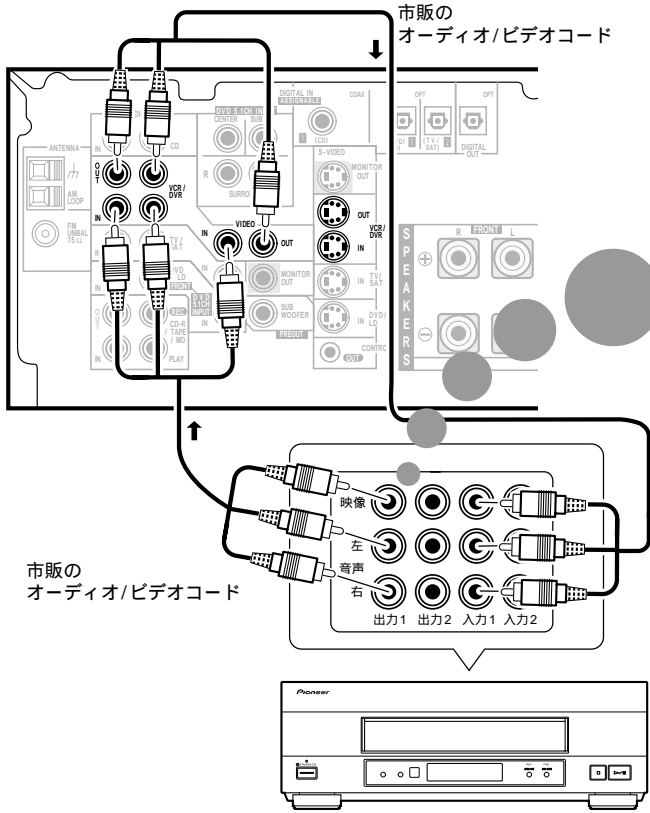
- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。
- サブウーファーは前方で、フロントスピーカーまでの距離と等距離になる位置に置くことをおすすめします。

ご注意:

センタースピーカーをテレビの上に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

ビデオ機器の接続

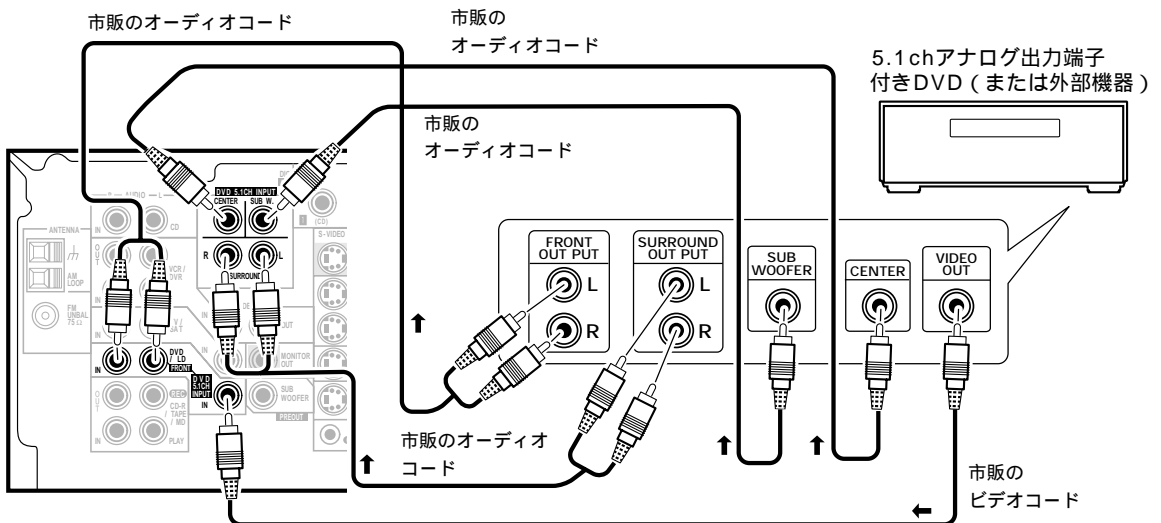
注意 **機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。**

ビデオデッキ、
DVDレコーダーなど

VCR/DVR OUT端子を通して本機を録画(録音)用のセレクターとして使用するには

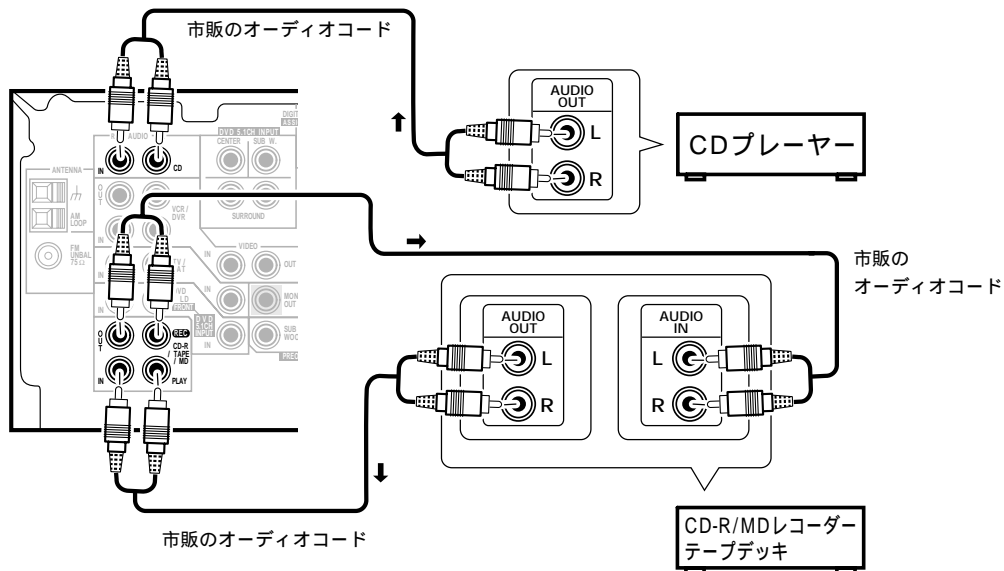
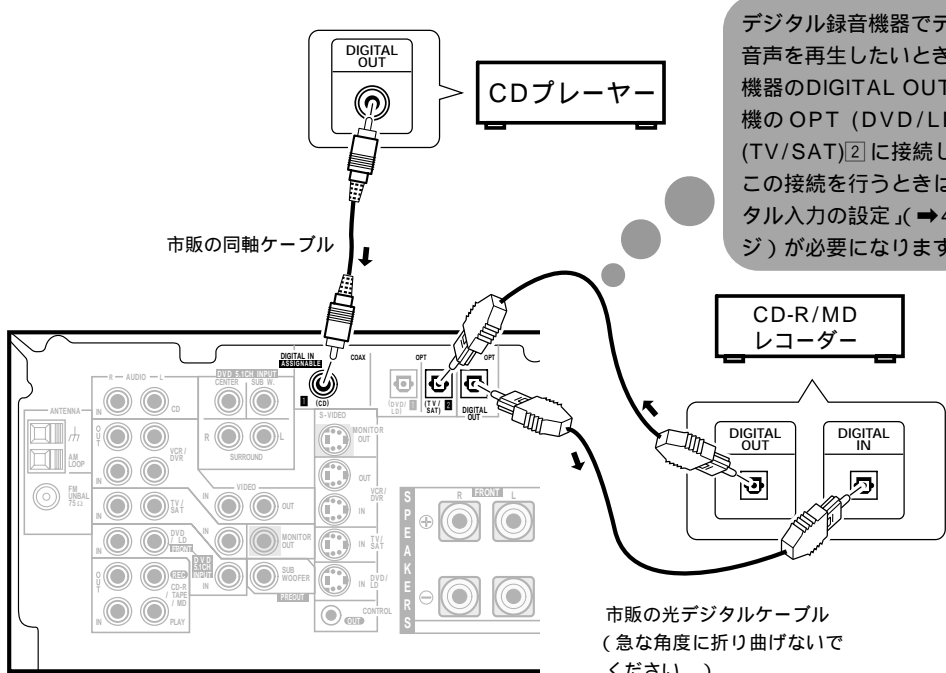
VCR/DVR OUT端子からは、デジタル接続の有無に関わらず、各映像入力端子に入力された映像信号と、各音声入力端子に入力された音声信号が、そのまま何の加工もされずに出力されます(リスニングモードなどの本機の各機能の効果も同様に盛り込まれません)。入力機器と本機を、デジタル接続やS映像ケーブルだけで接続している場合は、ビデオコードやオーディオコードでも接続してください。

メモ

・ S-VIDEO端子を使って接続する場合は、ビデオデッキなどの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR IN端子」を接続し、ビデオデッキなどの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR OUT端子」を接続します。

DVD 5.1chアナログ接続

オーディオ機器の接続

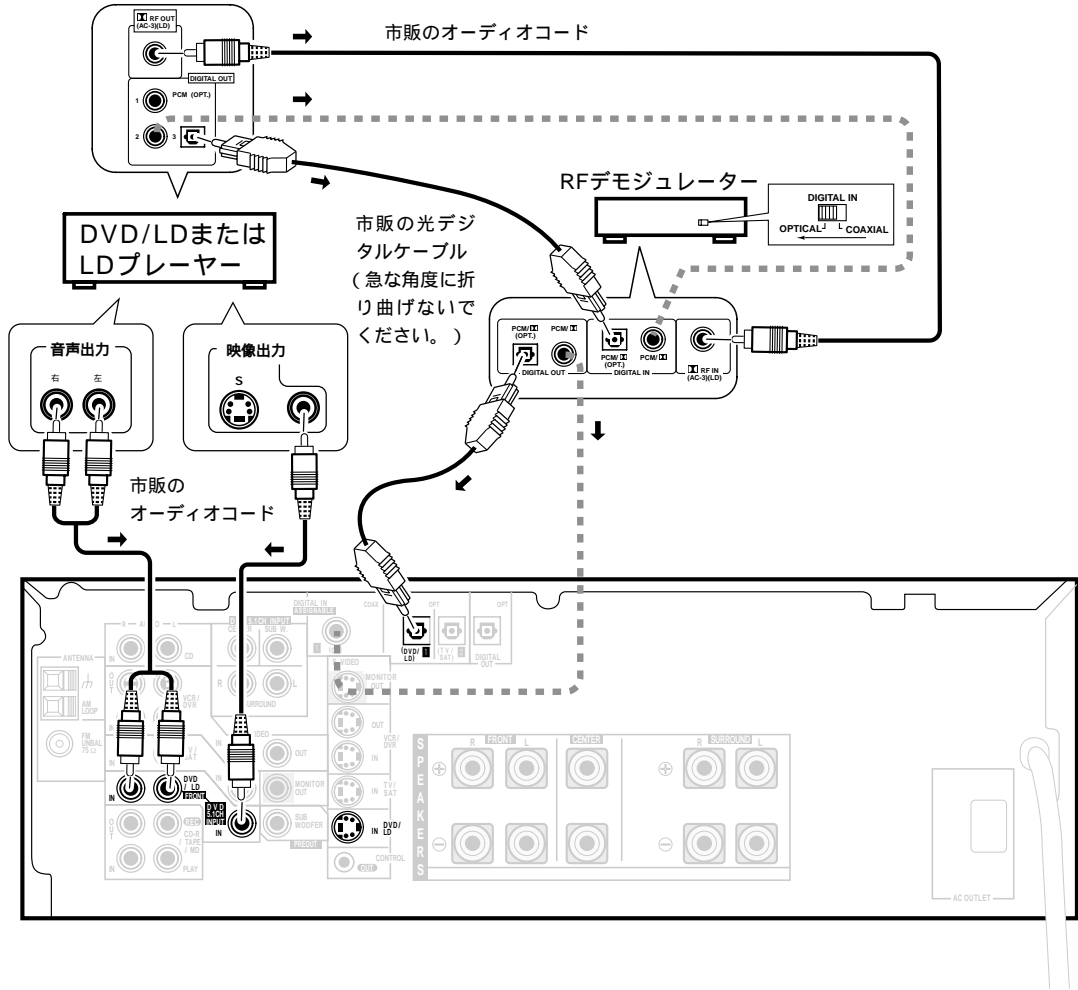
機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

アナログ接続

デジタル接続

デジタル録音機器でデジタル音声を再生したいときは録音機器のDIGITAL OUTから本機のOPT (DVD/LD)1か(TV/SAT)2に接続します。この接続を行うときは「デジタル入力の設定」(➡49ページ)が必要になります

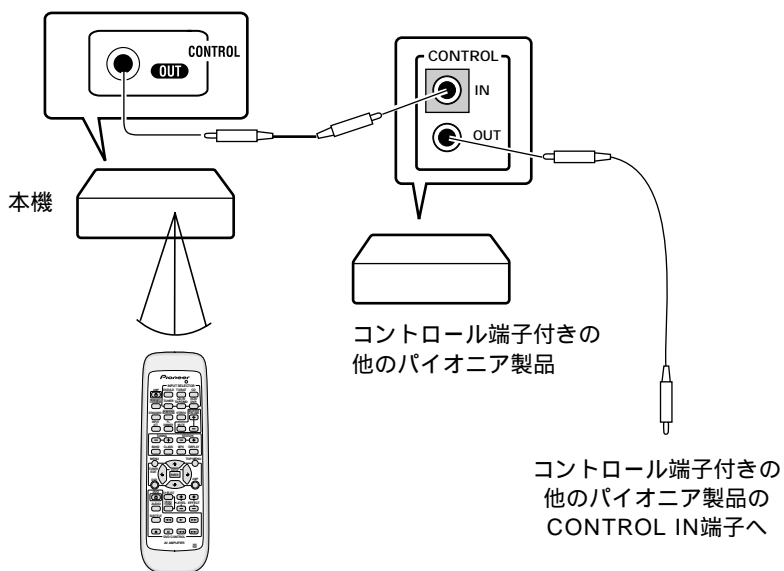
DVD/LDまたはLDプレーヤーの接続

ドルビーデジタルやDTSサラウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーにDD RF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターを使用してDD RF端子も接続します。RFデモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RFデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。LDのアナログオーディオディスクはデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

メモ

・ S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続します。

他のパイオニア機器を操作するための接続

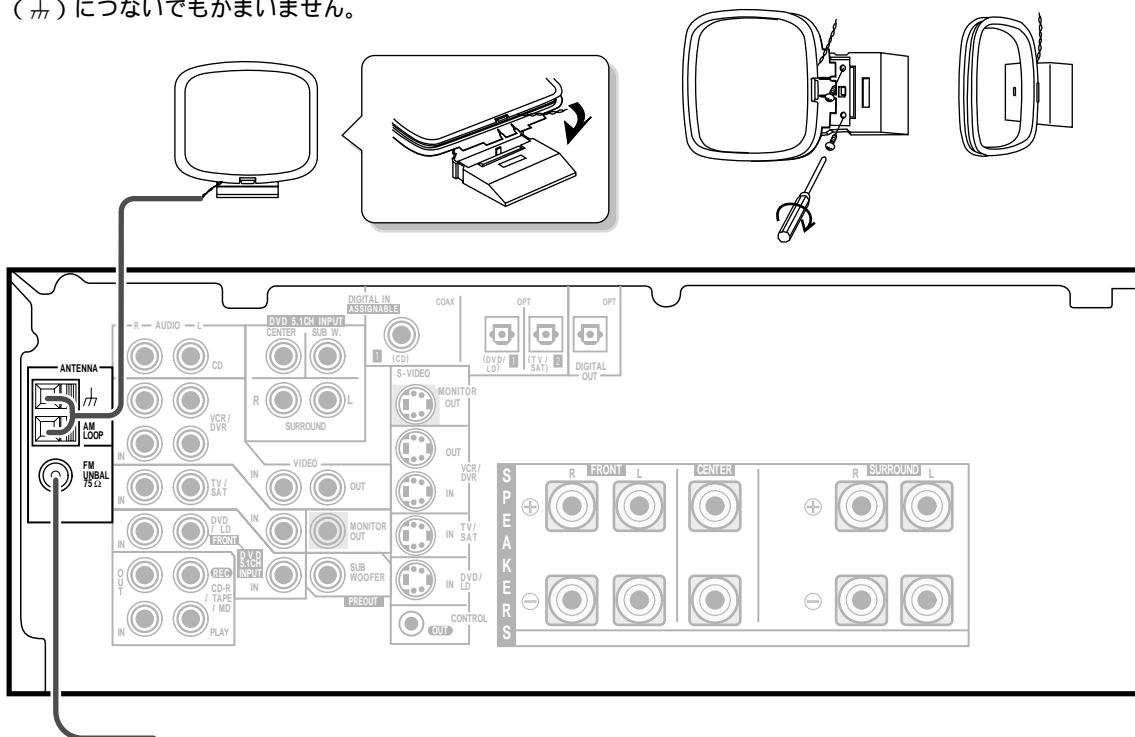
コントロールコードを接続すると、本機を通して他のコントロール端子付きのパイオニア製品を操作できるようになります。操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。このとき、リモコン信号は本機のリモコン信号受光部で受信され、CONTROL OUT端子を通して他機器に送信されます。

・ コントロールコードは別売です。ご使用の際は、モノラルミニプラグ付きコードをお買い求めください。
・ コントロール端子の接続をする場合は、必ずアナログの入出力も接続してください。デジタルの入出力だけでは、正しく動作しません。

アンテナの接続

アンテナは下図のように接続します。付属のAM/FMアンテナは簡易アンテナです。感度が悪く聞こえにくい場合は次ページ「外部アンテナの接続」をご覧になり、外部アンテナを接続することをおすすめします。

● AMループアンテナ（付属）

下図のように組み立てます。AMループアンテナのコード2本をAMアンテナ接続端子に接続します。どちらをアース側端子（⏚）につないでもかまいません。

壁などに取り付けるにはネジやピンなどを使って取り付けます

● FMアンテナ（付属）

中央のピンにアンテナコードを差し込みます。

● アンテナコードと本機の接続端子

① コードの被覆を回しながら引き抜きます。

② 端子のつめを押しながらコードを差し込み、奥までコードが入ったら端子のつめを戻します。

アンテナ接続に関するご注意

アンテナ接続について

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ

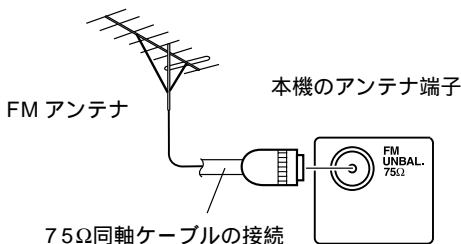
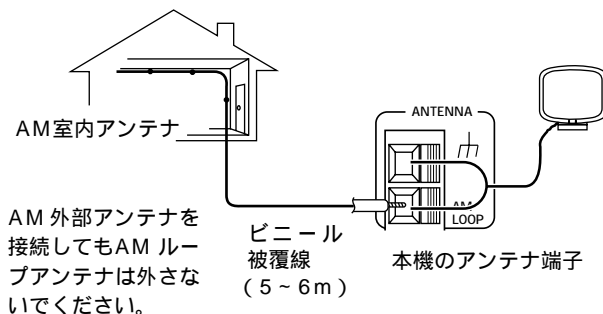
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

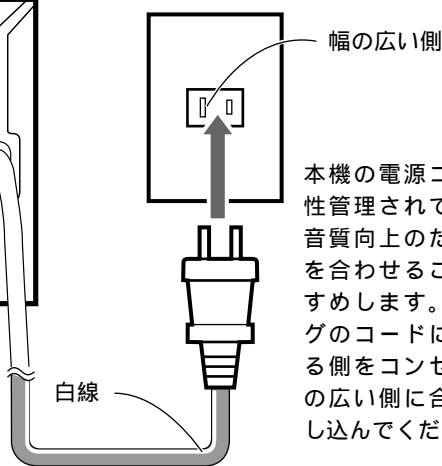
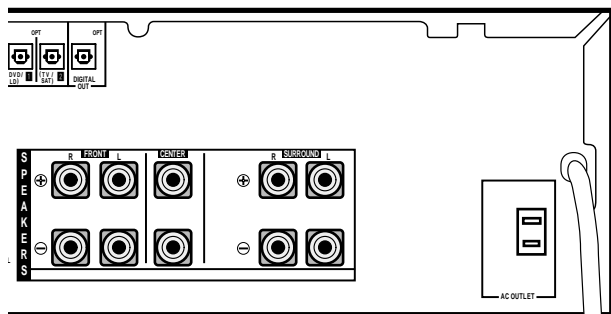
FM アンテナ

- FMアンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンとはってください。
- 付属のFMアンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。よりよい受信のためには専用アンテナを使用してください。

外部アンテナの接続

付属のアンテナでよく聞こえないときは、ＡＭ外部アンテナ(ビニール被覆線)、市販のＦＭ屋外アンテナを接続することをおすすめします。

● FM屋外アンテナ（75Ω同軸ケーブル）の接続
下図のように接続してください。

● AM外部アンテナ（ビニール被覆線）の接続
下図のように接続してください。

電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。

本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせることをおすすめします。電源プラグのコードに白線のある側をコンセントの幅の広い側に合わせて差し込んでください。

メモ

・ 旅行などで長期間本機を使用しない場合は､必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備電源コンセント(AC OUTLET)の接続(連動100W以下)

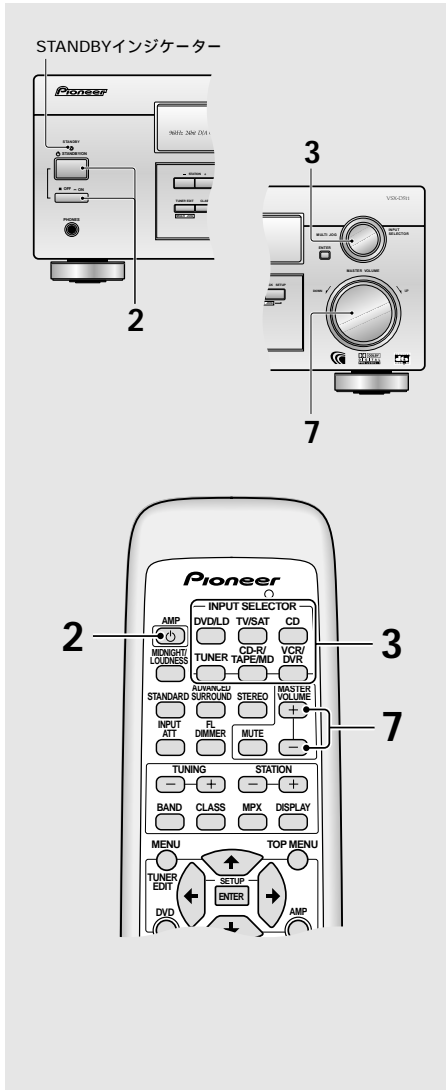
本機の電源スイッチのON/スタンバイ(OFF)の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。

このとき、接続した機器の電源スイッチはONにしておいてください。また、消費電力が100Wを超えないようにしてください。

⚠注意

■ 消費電力がパネルに表示されているWの数値を超える電気器具(トースター､ドライヤーなど)は絶対に接続しないでください｡機器の故障や火災の恐れがあります。

■ テレビは接続しないでください。
表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても､電源を入れたときに大きな電流が流れて､パネル表示値を超える場合があります。

基本再生

1 TV、入力機器（DVDプレーヤーなど）、サブウーファーの電源を入れる。

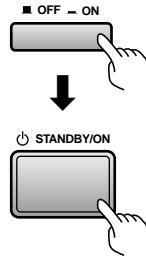
2

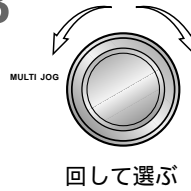
本体の主電源ボタン(■OFF/▂ON)を押してから⏻STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる。

表示部に入力名（DVDなど）が表示されることを確認してください。

3 入力を選択する。

MULTI JOG

回して選ぶ

回すたびに入力が順次切り換わります。

入力信号の設定（SIGNAL SELECT）はAUTOに設定されています。必要に応じて入力信号の種類を選びます。「アナログ/デジタル信号を切り換える」（➡32ページ）

4 テレビの設定をする。

画面に、本機からの出力映像が映し出されるようにテレビの入力切り換えをしてください。（テレビ放送を楽しむときはこの操作をする必要はありません）

5 入力機器の設定をする。

DVDプレーヤーなどの場合、デジタル出力信号の設定が必要な場合があります。（詳しくは次ページの「入力機器の設定確認」をご覧ください。）

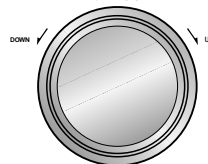
6 入力機器の再生を開始する。

各インジケーターが点灯します。

7

音量を調整する。

–––dB（最小）〜－0dB（最大）の間で調整できます。

音が出ないときは、「音が出ないスピーカーがあるときは、、」（➡59ページ）をご覧ください。

メモ

- ご使用後はリモコンのAMP⏻ボタンまたは本体の⏻STANDBY/ONボタンを押してください。電源が切れてスタンバイインジケーターが点灯します。
- 長時間ご使用にならないときは、本体の主電源ボタン(■OFF/▂ON)をOFFにすることをおすすめします。

映像出力信号について

テレビや入力機器にS映像端子が付いている場合は、S映像端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

その際、テレビとの接続もS映像端子を使用してください。S映像入力端子に入力された信号はS映像出力端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。

ご注意:
・ テレビによっては、S映像入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS映像入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

入力機器の設定確認

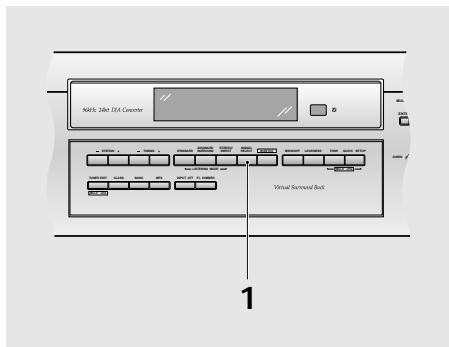
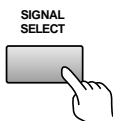
入力機器側で、次の2つの項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。各入力機器または各ソフトの説明書を見てご確認ください。

1. **入力機器のデジタル出力**
   入力機器側に以下の信号のデジタル出力設定がある場合、出力されるように設定してください。
   ・ ドルビーデジタル (➡55ページ)
   ・ DTS (➡55ページ)
   ・ MPEG(MPEG-2 AAC) (➡55ページ)
   ・ 96 kHz PCM (➡55ページ) :2チャンネルステレオ信号

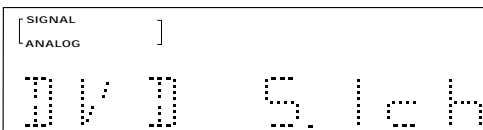
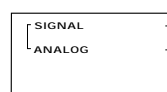
2. **再生ソフトの音声の確認**
   再生ソフトや放送が複数の音声を持つ場合、必要に応じてお聴きになりたい信号を選択してください。選んだ信号の種類やリスニングモードの選択(➡34ページ)に応じて音の出るスピーカーが変わります。

ご注意:
・ プレーヤーまたはソフトによっては 2 チャンネルステレオ信号(アナログ信号や PCM 信号など)以外は出力できないことがあります。そのような信号を本機に入力し、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみ頂くためには、リスニングモードを「スタンダード」などに切り換える必要があります。(➡34 ページ)

アナログ／デジタル信号を切り換える

本機ではアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。この入力信号を切り換えるにはフロントパネルのSIGNAL SELECTボタンを使用します。工場出荷時は「AUTO」に設定されています。

1

再生したい入力信号を選ぶ

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

AUTOにしたときはDIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。5.1chについては「DVD 5.1chアナログ入力を再生する」(➡38ページ)をご覧ください。

デジタル接続をしているのに、DIGITALが選択できないときは以下の原因が考えられますのでご確認ください。

- 入力機器の電源が入っていない。
- 入力機器側でデジタル出力が OFF に設定されている。
- デジタル出力信号が出ないソフトを再生している。(詳しくは入力機器の取扱説明書などでご確認ください。)

メモ

- 3つのデジタル入力端子のいずれにも割り当てられていない入力については、SIGNAL SELECTはANALOGに固定されます。(49ページ「デジタル入力の設定」をご覧ください)
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力からは出力されません。必ずSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM(32kHz、44kHz、48kHz、96kHz)、DTS、MPEG-2 AACのデジタル信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できませんので、その場合はアナログ接続してSIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択してください。
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のソフトを再生すると、プレーヤーによってはDTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し(25ページ)、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、DTS信号を出力しないものがあります。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードの種類と効果

本機では再生するスピーカーの数や、お聴きになるソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選択することができます。本機のリスニングモードは3つのタイプ（STANDARD、ADVANCED SURROUND、STEREO）に分かれています。モードの切換方法については、「リスニングモードの選択」（➡34ページ）をご覧ください。

STANDARD（ソフトに忠実な再生）

モノラル信号やマルチチャンネル信号（5.1chサラウンドなど）はそのまま忠実にデコード（再生）し、2チャンネル信号（ドルビーサラウンド、PCMなど）はドルビープロロジックIIサラウンド再生します（ただし、DTSの2chステレオ信号、96kHz PCM信号は除きます）。デジタル信号を入力しているときは、再生するソフトの音声信号の種類を自動的に検出してデコード（再生）方式を切り換えます。

DDPRO LOGIC

従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。

DDPRO LOGIC II MOVIE

5.1ch化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み（クロストーク）を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル5.1に迫るセパレーションや移動感などが得られます。

DDPRO LOGIC II MUSIC

5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）を再生するときに効果的です。サラウンドｃｈは定位よりも包囲感を重視しています。

ADVANCED SURROUND

このモードは、映画のサウンドトラックやそれ以外のオーディオビジュアルソフトを最適な音声で楽しむことができるオリジナルのサラウンドモードです。以下5つの中からお好きなモードを選択することができます。2chソースについてはあらかじめサラウンド化してからオリジナルの処理を加え、それ以外のソースについては忠実にデコードして処理を加えます。MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。

MOVIE

映画再生に適したモードです。特にドルビー、ＤＴＳ・エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的で、映画館で映画を楽しんでいる雰囲気を味わうことができます。

MUSIC

音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース（CDなど）に限らずドルビー、DTS・エンコードされた音楽作品を再生するときにも効果的です。コンサートホールのような雰囲気を味わうことができます。

VIRTUAL SB

まるでサラウンドバックチャンネルから音が出ているかのようにデコードします。
5本のスピーカーで6.1ch再生のような効果を楽しむことができます。

EXPANDED

ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、ドルビーデジタルの5.1chサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルに対してはより広がりのある音場を実現します。

5-STEREO

標準のステレオ（2 チャンネル）音声を加工することなく、5 チャンネルにて再生しますので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

☞「リスニングモードの種類と効果」は次のページへ続きます。

STEREO

左右のフロントスピーカーからステレオ音声（2ch）で再生するモードです。DVDプレーヤーでCDをステレオ再生するときなどに使用します。
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースは2chにダウンミックスして再生します。

STEREO

サラウンドに関する設定での各設定を反映し、「便利な音声再生用機能」（➡36ページ）の効果を加えてステレオ再生することができます。

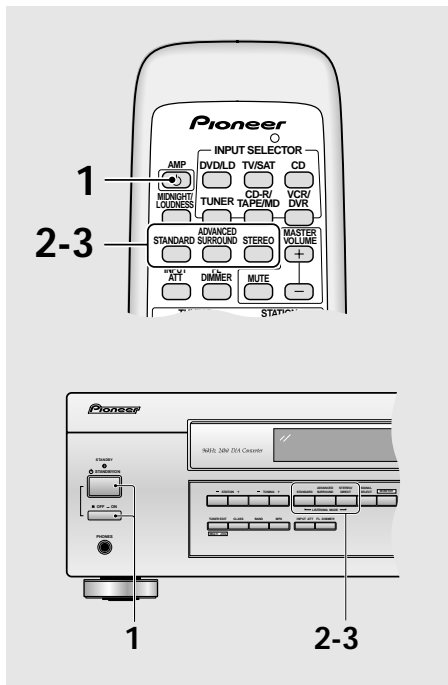
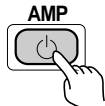
DIRECT

2chソースを原音に忠実な高品位ステレオ再生します。「スピーカーの設定」（➡41ページ）における設定は反映されます。

メモ
- 「DIRECT」を選択しているときに、「便利な音声再生用機能」（➡36ページ）をONにすると、自動的に「STEREO」に切り換わります。

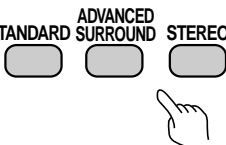
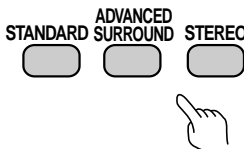
リスニングモードの選択

メモ
- 工場出荷時は「STEREO」に設定されています。ただし、DVD入力のみSTANDARDに設定されています。
- DTSの2chステレオ信号については、リスニングモードの選択に関わらずステレオ再生します。
- 96kHz リニアPCM信号を再生しているときは、ステレオのみ選択することができます。それ以外のモードに設定しているときに96kHz リニアPCM信号が入力されると、自動的にSTEREOに切り換わります。

1

本機の電源を入れる。

2

STANDARD　ADVANCED SURROUND　STEREO

リスニングモードのタイプを選ぶ。

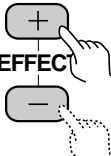
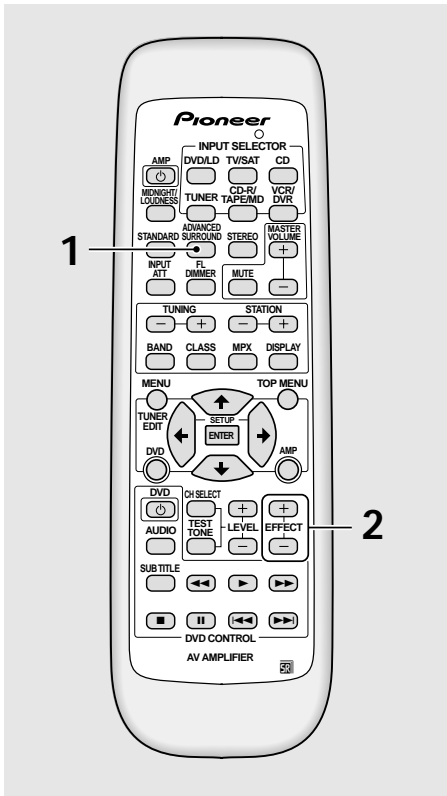
3

手順2で選んだタイプのボタンを押してお好みのリスニングモードを選ぶ。

各タイプごと、ボタンを押すたび以下のように切り換わります。

STANDARD

2chソースについてのみ以下のモードが切り換わります。マルチチャンネル信号を受信しているときはディスプレイにデコード名称が表示され、忠実デコードしますので以下のモードを切り換えることはできません。

ADVANCED SURROUND

STEREO

STEREO ➡ DIRECT

ADVANCED SURROUNDモードの効果を調整する

1 **ADVANCED SURROUNDモードに設定する（➡34ページ）。**

2

エフェクトレベルの効果を調整する。

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。

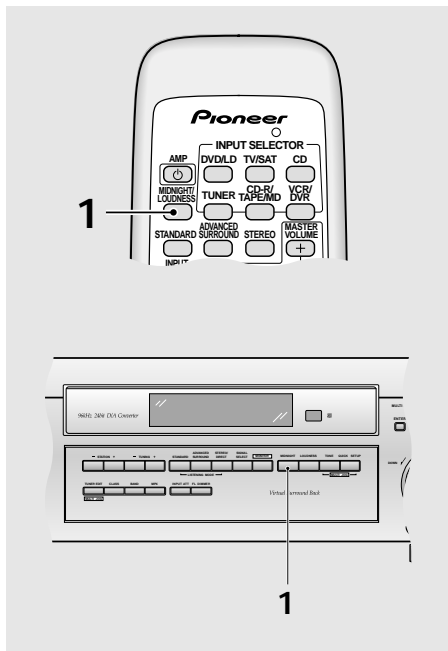
メモ

- 工場出荷時の設定は70に設定されています。
- 5-STEREOモードまたはVIRTUAL SBモードを選択しているときはエフェクトレベルは調整できません。

便利な音声再生用機能

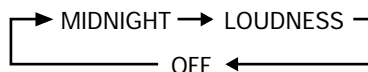
ミッドナイトリスニングモードで楽しむ

夜間など小音量で聴いていると、どうしても響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ミッドナイトリスニングモードをＯＮにすると、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなくお楽しみいただけます。（各入力ごとにON/OFFを設定できます）

1

ミッドナイトリスニングモードをONにする。

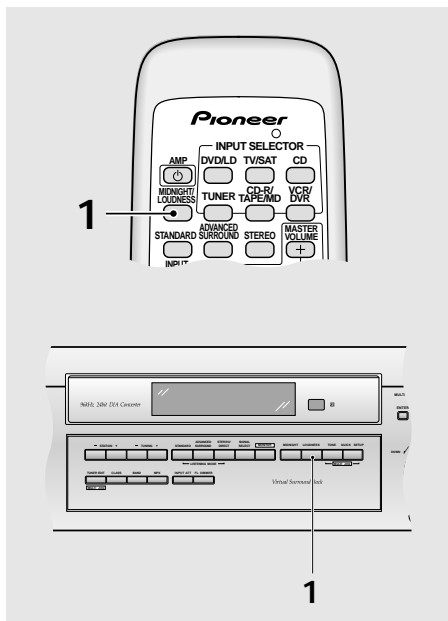
MIDNIGHTインジケーターが点灯します。

リモコンの場合はボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

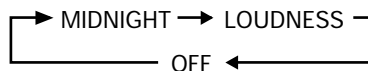
メモ

- 音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- DVD 5.1ch 入力モードでは、ミッドナイトリスニングモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにミッドナイトリスニングモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。
- MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。

小さな音でも音楽を聴き取りやすくする（ラウドネスモード）

ラウドネスモードを使用すると、低音域、高音域のレベルが上がり、小さな音量でも音楽を聴き取りやすくできます。

1

ラウドネスモードをONにする。

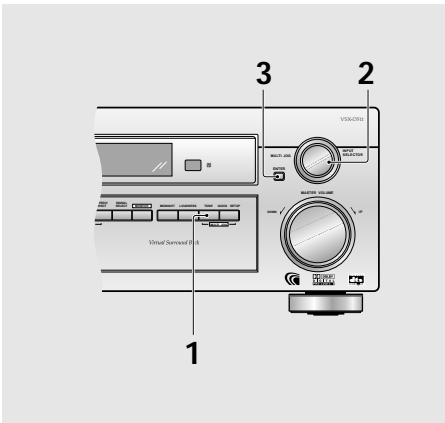
LOUDNESSインジケーターが点灯します。

リモコンの場合はボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

メモ

- DVD 5.1ch 入力モードでは、ラウドネスモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにラウドネスモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

低音、高音を調整する(トーンコントロール)

低音、高音の調節(トーンコントロール)は本体のTONEボタンとマルチジョグを使って調整できます。

1

低音(BASS)か高音(TREBLE)のどちらのトーンを調整するか選択する。

ボタンを押すたびに、低音(BASS)と高音(TREBLE)が切り換わります。

2

トーンを調整する。

トーンコントロールはそれぞれ±6dBの範囲内で2dBステップで調整できます。

3
ENTER

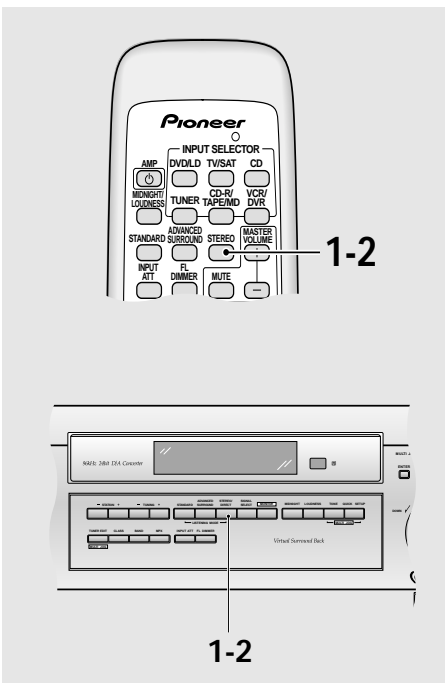
トーンを決定する。

メモ

・トーンコントロールはステレオ再生モードのときのみ有効です。その他のリスニングモードや、DVD5.1chアナログ入力を選んでいるときはトーンコントロールはできません。

ダイレクト再生モード

トーンコントロールやチャンネルレベルなど通さずにステレオ再生します。2 チャンネルソースを忠実に再生したいときはこのモードをONにします。

1

ステレオ再生モードにする。

ディスプレイにSTEREOと表示されます。

2

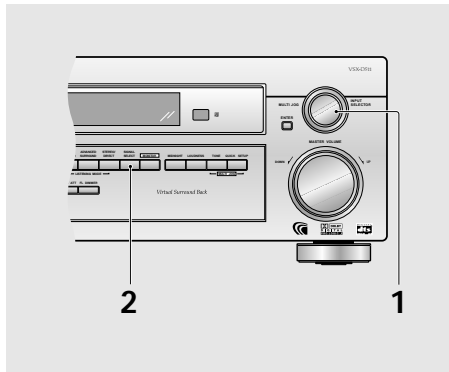
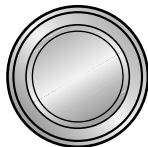
もう一度ボタンを押してダイレクト再生モードにする。

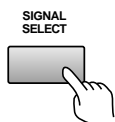
ボタンを押すたびに、ステレオ再生モードとダイレクト再生モードが切り換わります。

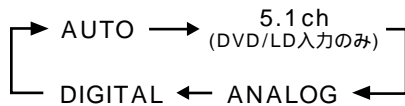
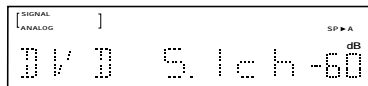
メモ

・トーンコントロールやその他のリスニングモードを使用するとダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

DVD 5.1chアナログ入力を再生する

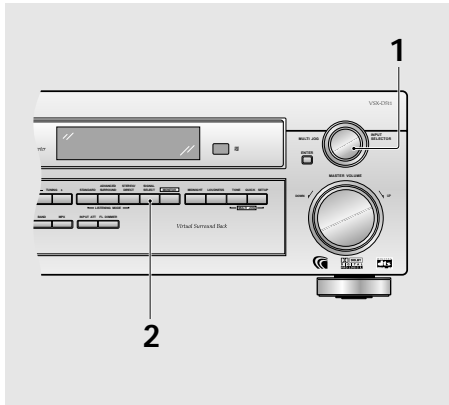
DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーや、外部デコーダーなどの5.1チャンネルアナログ出力付き機器を接続して、5.1チャンネルのサラウンド再生を楽しむことができます。

1

再生するソースをDVD/LDにする。

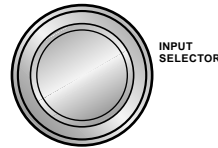
2

SIGNAL SELECTボタンを押して「DVD5.1ch」にする。

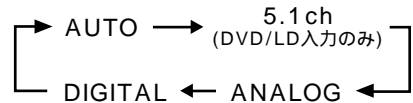
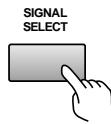
ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

5.1ch入力を選択したとき

メモ

- DVD 5.1ch入力のときは、STANDARDモード、ADVANCED SURROUNDモード、INPUT ATT、ダイレクト再生モード、トーンコントロール、ミッドナイトリスニングモード、ラウドネスモードの操作はできません。
- DVD5.1ch入力のときは、音量レベルと各チャンネルレベル以外の設定は本機ではできません。

本機を使った録音／録画

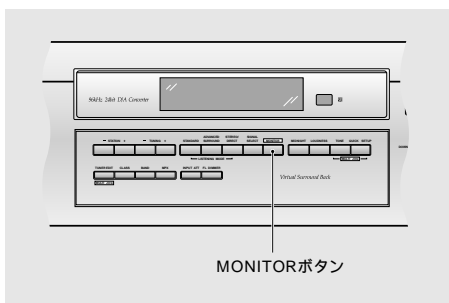
オーディオ機器からの音声を、本機の端子に接続された録音機器に録音することができます。
アナログ録音する場合は本機のリアパネルのCD-R/TAPE/MD端子に録音機器を接続してください(➡25ページ)。デジタル録音する場合は本機のリアパネルのDIGITAL OUT端子に光デジタル入力端子を持つデジタル録音機器を接続し、DIGITAL IN端子に録音ソースのデジタル機器を接続してください(➡25ページ)。

1 録音するソースを選ぶ。

回すたびに入力が順次切り換わります。

2 アナログ録音するときはANALOGを、デジタル録音するときはDIGITALを選ぶ。

押すたびに、以下のように切り換わります。

3 録音機器の録音を開始する。

4 録音するソースを再生する。

メモ

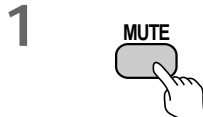
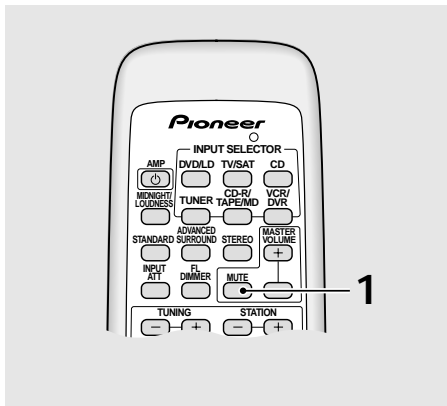
- アナログ録音したいときはアナログ接続されている機器どうしの場合のみ録音することができます。デジタル録音の場合も、デジタル接続されている機器どうしのみ録音することができます。
- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール(TREBLE、BASS)、リスニングモードの設定は、録音信号には効果がありません。
- 信号や録音機器によっては、デジタル出力はできてもコピーガードによりデジタル録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください。
- 録音するソースがCDR/TAPEの場合、CD-R/TAPE/MDのREC端子には音が出ません。

MONITORボタン

録音モニター

録音モニター付きのカセットデッキをCD-R/TAPE/MD端子に接続すると、録音しながら録音されている音声を聴くことができます。
ソース機器の再生音と録音されている音を切り換えるには、MONITORボタンを押します。

その他の機能

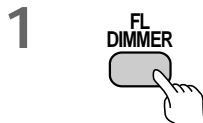
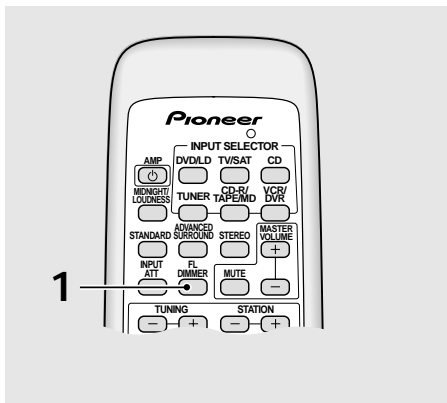
消音（ミュート）

ボタン1つで一時的に音を消す（ミュートする）ことができます。

1

消音ボタンを押す。

一時的に音が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。音量＋／－ボタンでもミュートを解除します。

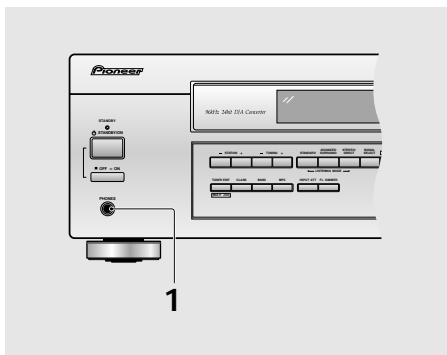
表示部の明るさ調整（ディマー）

表示部の明るさを4段階に調整することができます。

1

好みの明るさに調整する。

押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」「OFF」の4段階で切り換わります。

- OFFのときはインジケーターも消灯し、音量レベル表示がうっすらと点灯します。
- 設定した明るさに関わらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、2秒後に元の明るさに戻ります。

ヘッドホンを使う

1 **ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む。**

- 差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
- リスニングモードはステレオのみの選択になります。

細やかな設定（システムセットアップ）

本機では、簡単設定（QUICK SETUP SYSTEM）（➡12ページ）で簡単なシステム設定を行うことができますが、「細やかな設定」を行いますと、より快適なリスニング環境をつくり出すことができます。

メモ 以下の「細やかな設定」を行った後に、簡単設定を行うと簡単設定の値が優先されますのでご注意ください。

パイオニア製S-HS22等の小型スピーカーを5本とアンプ内蔵サブウーファーをお使いの方は、以下の項目のうち「スピーカーの設定」と「サブウーファーの設定」、「クロスオーバー周波数の設定」のみの設定でもサラウンドをお楽しみいただけます。工場出荷時の設定は58ページをご覧ください。

設定項目について

スピーカーの設定　（➡44ページ）

各スピーカーの有り／無し、ならびに低音域をそのスピーカーで再生するかどうかを設定します。

大（LARGE）：低音域（100Hz以下）を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をそのスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm以上です。

小（SMALL）：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、そのチャンネルの低音域は、ほかのスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm未満です。

無し（＊）：接続しない場合。（そのチャンネルの音声は、ほかのスピーカーで再生されます）

- 工場出出荷時はすべてのスピーカーが**小（SMALL）**で設定されています。
- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大（LARGE）に設定しないと低音が損なわれます。

サブウーファーの設定　（➡45ページ）

サブウーファー（低音域を専門に受け持つスピーカー）の有り／無し／プラスを設定します。

ON：サブウーファーを接続する場合。
このときサブウーファーからはLFE成分（超低域信号成分）や「スピーカーの設定」で小（SMALL）に設定したチャンネルの低音域が出力されます。ただし、FL–CS–SLと設定したときのセンターチャンネルの低音域はフロントスピーカーから出力されます。

PLS(PLUS)：サブウーファーを接続し常にサブウーファーから音を出したい場合。
このときサブウーファーからは「ON」に設定したときと同じ信号に加えて、大（LARGE）に設定したチャンネルの低音域も出力されます。これにより、大に設定したチャンネルの低音域はそのチャンネルのスピーカーとサブウーファーの両方から出力されることになります。

OFF：サブウーファーを接続しない場合。
低音域は他のスピーカーで再生されます。（スピーカーの設定によって低音域を再生するスピーカーは変わります）

- 工場出出荷時は**ON**で設定されています。
- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーを小（SMALL）に設定していると、サブウーファーはONに固定され、OFFやPLSを選ぶことはできません。

クロスオーバー周波数の設定　（➡45ページ）

「スピーカーの設定」で小（SMALL）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのかを設定します。

- 工場出荷時は**100 Hz**で設定されています。

LFEアッテネータの設定　（➡46ページ）

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分（超低域信号成分）の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート（減衰）する量を設定することができます。

0 dB　：収録されているレベルのまま再生します。
10 dB　：レベルを10dBアッテネート（減衰）します。
LFE ATT＊＊(OFF)　：LFE成分の音が出なくなります。

- 工場出荷時は**0 dB**で設定されています。

フロントスピーカーまでの距離の設定　（➡46ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からフロントスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

- 工場出荷時は**3.0 m**で設定されています。

センタースピーカーまでの距離の設定　（➡47ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

- 工場出荷時は**3.0 m**で設定されています。

サラウンドスピーカーまでの距離の設定　（➡47ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

- 工場出荷時は**3.0 m**で設定されています。

ダイナミックレンジコントロールの設定　（➡48ページ）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表わしたものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

OFF　：ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
MAX　：ダイナミックレンジを最も圧縮します。
MID　：ダイナミックレンジを少し圧縮します。

- この機能の効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、他のソフトを小音量で楽しむときにはミッドナイトリスニングモード（➡36ページ）が効果的です。
- 工場出出荷時は**OFF**で設定されています。

デュアルモノの設定　（➡48ページ）

1+1デュアルモノラル信号とは、モノラルの音声チャンネルを2つもつデジタル信号のことで、ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は例えば以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  .... ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 2 か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  .... 録画モードの名称は機器によって異なります。
  詳しくは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1　：チャンネル1の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の（フロント）スピーカーからチャンネル1の音声が出力されます）
ch2　：チャンネル2の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右の（フロント）スピーカーからチャンネル2の音声が出力されます）
L.c1 R.c.2　：チャンネル1の音声を左の（フロント）スピーカーから、チャンネル2の音声を右の（フロント）スピーカーから出力する場合。

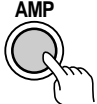
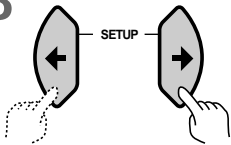
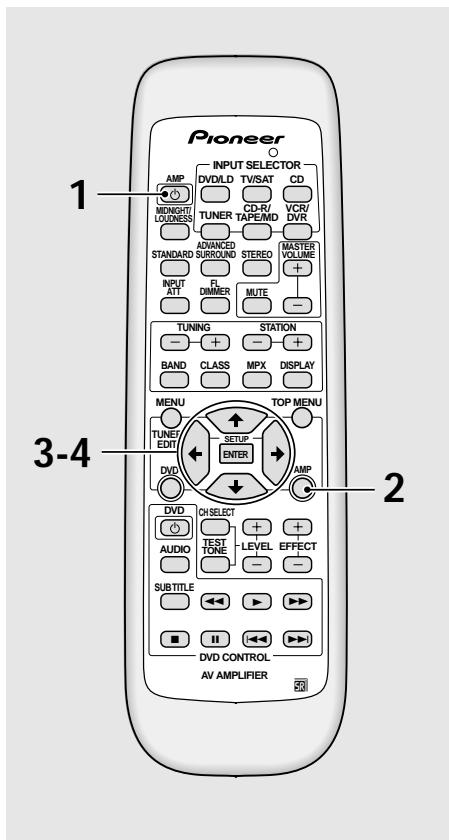
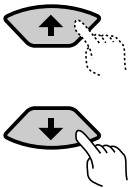
- 工場出出荷時は**ch1**で設定されています。

デジタル入力の設定　（➡49ページ）

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

- 工場出荷時、同軸デジタル入力（COAX）は CD に、光デジタル入力 1（OPT1）は DVD/LD に、光デジタル入力 2（OPT2）は TV/SAT に設定されています。

細やかな設定

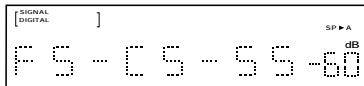
各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

スピーカーの設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。
パイオニア製S-HS22などの小型スピーカーセットをお使いの方は「FS-CS-SS」を選んでください。

1 本機の電源を入れる。

2

AVアンプボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

3

スピーカーの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

4

スピーカー設定の組み合わせを選ぶ。

押すたびに以下の11通りに切り換わります。

		フロントスピーカー(F)	センタースピーカー(C)	サラウンドスピーカー(S)
①	FS-CS-SS dB -80	小(S)	小(S)	小(S)
②	FL-C∗-SS dB -80	大(L)	無し(＊)	小(S)
③	FL-C∗-SL dB -80			大(L)
④	FL-CS-S∗ dB -80		小(S)	無し(＊)
⑤	FL-CS-SS dB -80			小(S)
⑥	FL-CS-SL dB -80			大(L)
⑦	FL-CL-S∗ dB -80		大(L)	無し(＊)
⑧	FL-CL-SS dB -80			小(S)
⑨	FL-CL-SL dB -80			大(L)
⑩	FS-C∗-SS dB -80	小(S)	無し(＊)	小(S)
⑪	FS-CS-S∗ dB -80		小(S)	無し(＊)

続けて次ページ以降の設定を行うときは、各項目の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- フロントスピーカーを小(SMALL)に設定するときは、必ず低音域を再生するためにサブウーファーを接続してください。
- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大(LARGE)に設定しないと低音が損なわれます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。
- センタースピーカー、サラウンドスピーカーが共に無い組み合わせは選択できません。その場合はリスニングモード(➡34ページ)を「ステレオ」にしてお聴きください。

各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

サブウーファーの設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

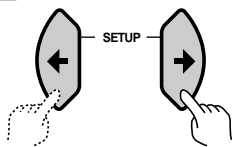
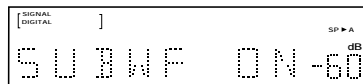
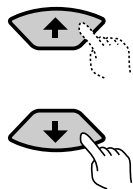
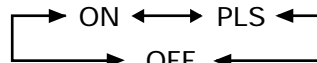
パイオニア製S-HS22などの小型スピーカーとアンプ内蔵サブウーファーのセットをお使いの方は「ON」になっていることを確認してください。

メモ

- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーが小(SMALL)に設定されている場合、サブウーファーはONに固定され、OFFやPLSを選ぶことはできません。
- ONに設定していてもスピーカーの設定、リスニングモードの選択、入力信号の種類によってはサブウーファーから音が出ないことがあります。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1〜2の操作を行う。

2

サブウーファーの設定モードを選ぶ。
押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

ONまたはPLS、OFFを選ぶ。
押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

クロスオーバー周波数の設定

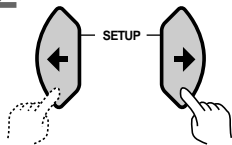
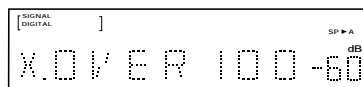
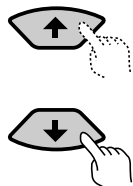
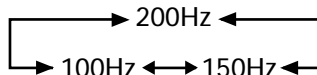
パイオニア製S-HS22などの小型スピーカーセットをお使いの方は「200Hz」に設定することをお勧めします。

メモ

- それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。
- 「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンドスピーカーのいずれかが小(SMALL)に設定されているときのみ、クロスオーバー周波数は設定できます。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1〜2の操作を行う。

2

クロスオーバー周波数の設定モードを選ぶ。
押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

クロスオーバー周波数を選ぶ。
押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

細やかな設定

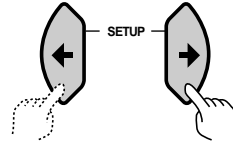
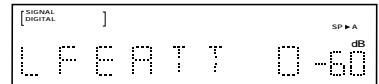
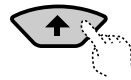
各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

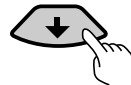
LFEアッテネータの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1〜2の操作を行う。

2　LFEアッテネータの設定モードを選ぶ。

SETUP

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3　アッテネート(減衰)量 を選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

0 dB ⟷ 10 dB → LFE ATT ＊＊ (OFF) → 0 dB

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- すべてのアッテネート(減衰)量で試し、最適な状態に設定することをおすすめします。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

フロントスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

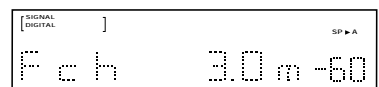
フロント左（FL）　フロント右（FR）

3.0m　3.0m

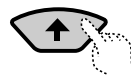
視聴位置

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1〜2の操作を行う。

2　フロントスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

SETUP

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3　フロントスピーカーまでの距離を設定する。

0.3〜9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

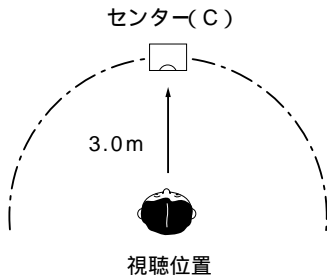
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- フロントスピーカーまでの距離を設定すると、自動的にサブウーファーまでの距離もフロントスピーカーと同じ距離に設定されますので、サブウーファーとフロントスピーカーは視聴位置からほぼ同じ距離になるように設置してください(サブウーファーまでの距離の設定はありません)。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

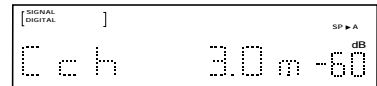
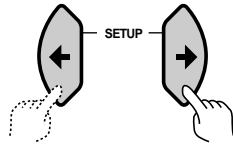
センタースピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

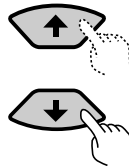
1 **44ページの手順1～2の操作を行う。**

2 **センタースピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

SETUP

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

センタースピーカーまでの距離を設定する。

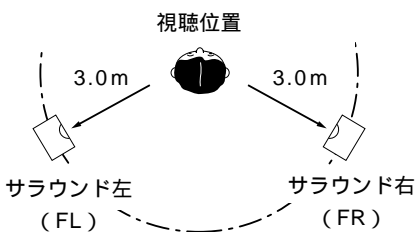
0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 「スピーカーの設定」で、センタースピーカーが無し（＊）に設定されている場合は設定できません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

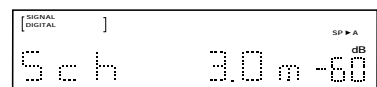
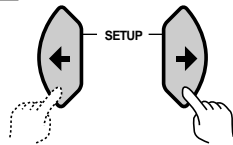
サラウンドスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定が簡単設定よりも優先されます。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

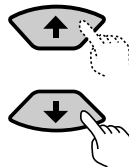
1 **44ページの手順1～2の操作を行う。**

2 **サラウンドスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

SETUP

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

サラウンドスピーカーまでの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 「スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカーが無し（＊）に設定されている場合は設定できません。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

細やかな設定

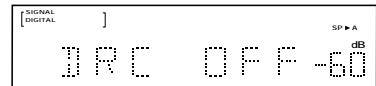
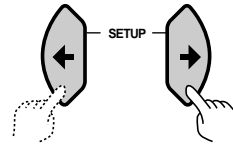
各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

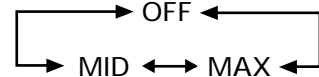
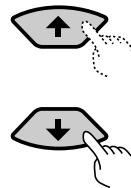
ダイナミックレンジコントロールの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1～2の操作を行う。

2　ダイナミックレンジコントロールの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3　OFF、MIDまたはMAXを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

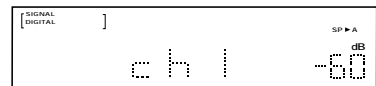
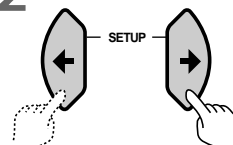
- 小さい音量で楽しむ場合は、MAXに設定することをおすすめします。
- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

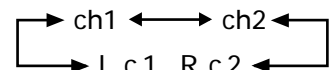
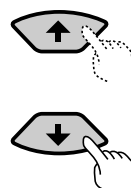
デュアルモノの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1　44ページの手順1～2の操作を行う。

2　デュアルモノの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3　再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。

押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

各項目についての詳しい説明は41ページから43ページをご覧ください。

デジタル入力(DIGITAL IN)の設定

工場出荷時と同じ接続(リアパネル表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

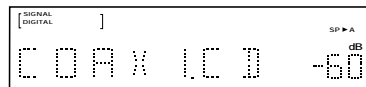
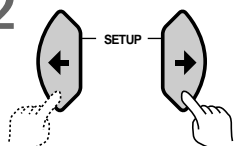
メモ 工場出荷時、同軸デジタル入力（COAX）はCDに、光デジタル入力1（OPT1）はDVD/LDに、光デジタル入力2（OPT2）はTV/SATに設定されています。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **44ページの手順1～2の操作を行う。**

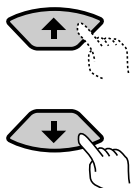
2

同軸デジタル入力の設定モードを呼び出す。

ディスプレイを下記の状態にします。

3

同軸デジタル入力を設定する。

例えばCDを接続している場合、「CD」に設定します。

押すたびに、以下のように切り換わります。

4 **光デジタル入力の1と2も設定を切り換える必要があれば同じように割り当てたい入力に設定します。**

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

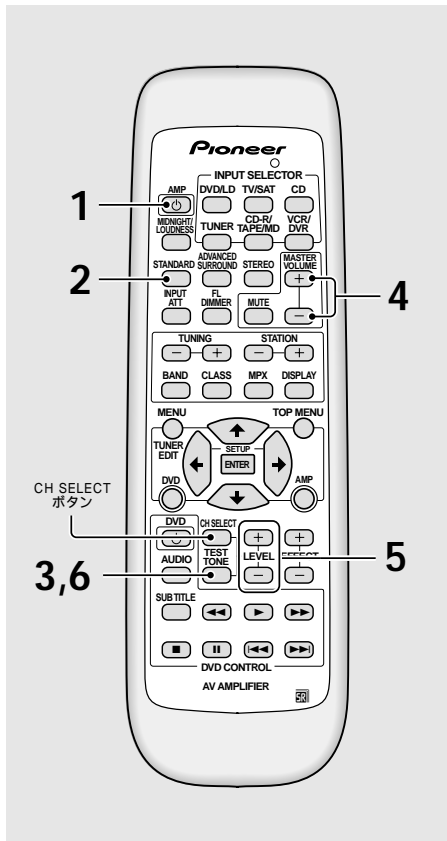
メモ

- 同軸デジタル入力(COAX)と光デジタル入力(OPT❶、❷)はいずれも同じ入力を割り当てることはできません(デジタル入力の設定で２つ以上のデジタル端子を同じ入力切換に設定した場合、あとから設定したデジタル入力が優先され、ほかのデジタル入力はオフになります)。
- デジタル入力の接続ができる入力切換はDVD/LD、TV/SAT、CD、CD-R/TAPE/MD、VCR/DVRです。

スピーカー出力レベル（各チャンネルの音量レベル）の調整

システムセットアップの設定が終わりましたら、以下の手順で各チャンネルの音量レベルを合わせてください。

1 本機の電源を入れる。

AMP

2 リスニングモードをスタンダードにする。

STANDARD

3 TEST TONEボタンを押す。

TEST TONE

テストトーン（ザーという音）がスピーカーの設定（➡44ページ）で有りに設定されているスピーカーからのみ以下の順番で出力されます。（手順4へお進みください。）

フロント左(FL) → センター(C) → フロント右(FR) → サラウンド右(SR) → サラウンド左(SL) → サブウーファー(SW) →

またはCH SELECTボタンを押す。

テストトーンは出力されませんが、押すごとに各チャンネルのレベル調整モードになります。（選択できるチャンネルはスピーカーの設定（➡44ページ）やリスニングモードの選択（➡34ページ）によってかわります）

4 好みの音量に調整する。

5 テストトーンが出力されているチャンネルのレベルを調整する。

各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

6 テストトーンボタンを押す。

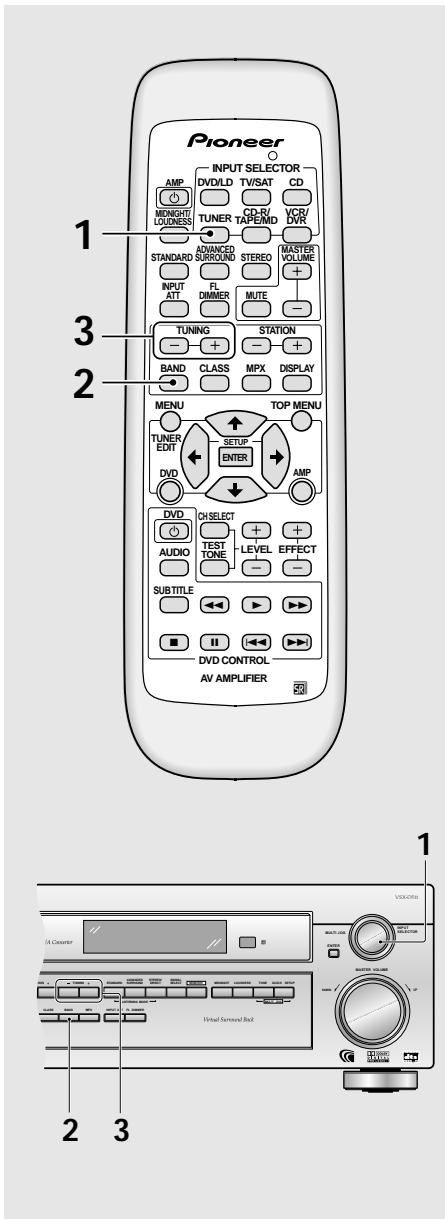
テストトーンが止まり、レベル調整を終了します。

メモ

- 工場出荷時は、各チャンネルとも0 dBに設定されています。
- CH SELECTボタンを押して各チャンネルのレベル調整モードに入った場合、5秒間なにも操作がないときは調整モードは終了します。
- サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
- サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
- サブウーファーのレベルはできるだけサブウーファー側で行い、本機での調整は補助としてお使いください。

ラジオ放送を聞く

放送局の受信のしかた

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。

1 入力をチューナーにする。

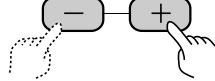
TUNER

本体の場合はINPUT SELECTORで選びます。

2 AMとFMを切り換える。

BAND

押すたびに、AMとFMが切り換わります。

3 放送局を受信する。

TUNING

受信のしかたには、3種類あります。自動的に放送局を受信するオートチューニング、手動で1ステップずつ周波数を合わせていくマニュアルチューニング、同じく手動で周波数を合わせるハイスピードマニュアルチューニングとがあります。

オートチューニング

ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を離す。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると止まります。
途中で止めるときはTUNING+ボタンまたはTUNING−ボタンを押します。

マニュアルチューニング

ボタンを1回ずつ押す。

周波数が1ステップずつ変化します。
1ステップはFM放送が0.05MHzで、AM放送が9kHzです。

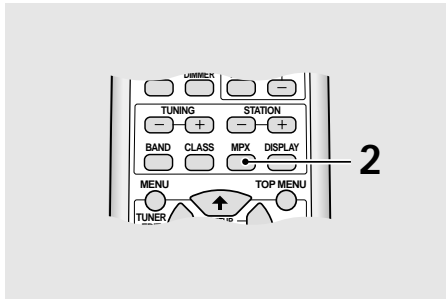
ハイスピードマニュアルチューニング

ボタンを押し続けます。

周波数が連続して変化します。指を離すと止まります。

ラジオ放送を聞く

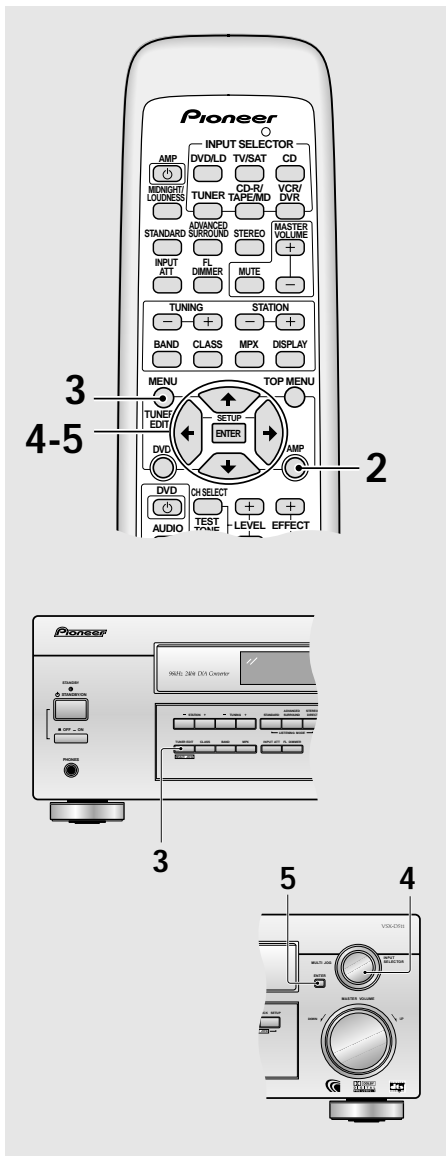
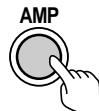
MPXモードを使う

FM局を聞いているとき、受信電波が弱いため、TUNEDもしくはSTEREOインジケーターが点灯しないときがあります。そのようなときはMPXモードでモノラル受信にすることでノイズを低減させることができます。

1

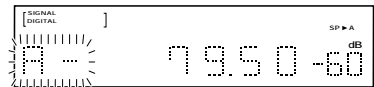
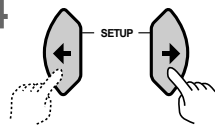
モノラル受信にする。

MONOインジケーターが点灯します。
押すたびに、モノラル受信とステレオ受信が切り換わります。

放送局を記憶する

本機では、よく聞く放送局をA.B.Cのクラスに各10局、合計30局まで記憶することができます。

1 **記憶したい放送局を受信する。（➡51ページ）**

2 **AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **放送局の記憶モードにする。**

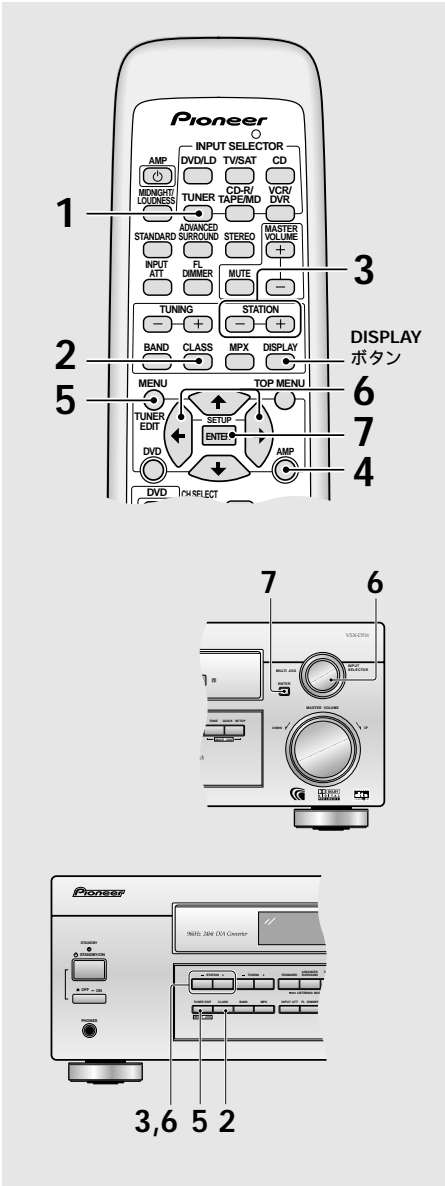
ステーション番号が点滅します。

4 **ステーション番号を選ぶ。**

A0～C9までのステーション番号をお好みで選択することができます。
本体の場合はMULTI JOGで選びます。

5 **記憶したいステーション番号を決定する。**

ステーション番号が記憶されます。

6 **手順1～5を繰り返して30局まで記憶することができます。**

放送局に名前をつける（ステーションネーム）

1 TUNER
入力をチューナーにする。

本体の場合はINPUT SELECTORで選びます。

2 CLASS
名前をつけたい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3 STATION
名前をつけたい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

4 AMP

AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

5 TUNER EDIT

ステーションネームモードにする。

「S.T NAME」と表示されステーションネームモードになります。

6 SETUP

入力したい文字を選ぶ

本体の場合はMULTI JOGで選びます。

入力できる文字は以下の通りです。

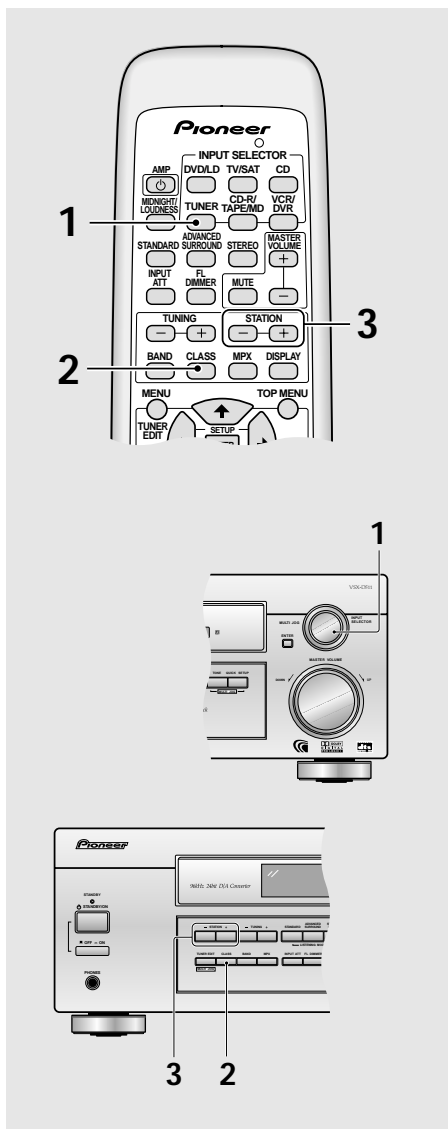
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
[\ ]_!0123456789
”%&’()*+,–./= =?a(スペース)

7 ENTER
選んだ文字を決定する。

8 **手順6～7を繰り返して名前をつける。**

メモ

- 最大4文字までの入力となります。
- リモコンのDISPLAYボタンを押すことで、周波数とメモリーさせた名前を切り換えることができます。

記憶した放送局を呼び出す

1 TUNER

入力をチューナーにする。

本体の場合はINPUT SELECTORで選びます。

2 CLASS

呼び出したい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3 STATION

呼び出したい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

メモ

・ 旅行などで長期間本機の電源コードを電源コンセントから抜いておいたり、主電源をOFFにしておきますとステーションメモリーは消去されます。

用語解説

DVDソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。

1. 英　語　(5.1ch サラウンド)
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語　(DTS 5.1ch サラウンド)

DOLBY DIGITAL
DIGITAL dts SURROUND

収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

音声記録方式について

ドルビーデジタル DOLBY DIGITAL

DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。5.1chサラウンドソフトには、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されており、サブウーファーから出力される低音も記録されているため、本機とデジタル接続して再生することにより、すべてのチャンネルの信号が伝送され、臨場感あふれるマルチチャンネルサラウンド再生をお楽しみ頂くことができます。
よってドルビーデジタル信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS DIGITAL dts SURROUND

デジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

PCM

Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない2チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式の1つでもありますが、CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

録音方式ついて

2ch ステレオ信号

左右2つのチャンネルに別々の音が記録されている信号です。通常の音楽用CDなどはほとんどこの信号で録音されています。

2ch サラウンド信号（ドルビーサラウンド信号）

フロント左/右、センター、サラウンドの4つのチャンネルの音声信号を左右2つのチャンネルに圧縮した信号です。この信号をドルビープロロジックサラウンド再生することにより、各チャンネルの音声信号がソフトに忠実に再生されます。

5.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5つのチャンネルと超低音域専用チャンネル（LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます）にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、立体感のある音場を得ることができます。

再生方式ついて

（2ch）ステレオ再生

左右2つのスピーカーのみによる再生のことです。（ヘッドホン使用時は、ヘッドホンの左右2つのチャンネルのみ）

ドルビープロロジックサラウンド再生

2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード（再生）し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号をつくりだします。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックⅡサラウンド再生

ドルビープロロジックIIは、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックIIの違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch（サラウンド モノラル）	5.1ch（サラウンド ステレオ）
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

マルチチャンネルサラウンド再生

3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

モノラル再生

モノラル信号やデュアルモノラル信号をソフトに忠実に再生することです。

仕様

オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、6 Ω）
フロント .... 100 W/CH
センター .... 100 W
サラウンド .... 100 W/CH
定格出力（ステレオ動作時）
20 Hz〜20 kHz、0.09%、6 Ω...... 70 W＋70 W
入力端子（感度/インピーダンス）
CD, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT
.... 200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
CD, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT .... 98 dB
周波数特性
CD, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT
.... 5 Hz〜100,000 Hz $^{+0}_{-3}$ dB
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR/DVR REC, CD-R/TAPE/MD REC
.... 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ± 6dB（100 Hz）
TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
LOUDNESS ..... + 9dB/+9dB（100 Hz/10 kHz）

ビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT
.... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR/DVR .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT
→MONITOR .... 5 Hz〜10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
クロストーク(3.58 MHz) .... 55 dB
SN比 .... 65 dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz〜90.0MHz
実用感度 .... モノ；15.2dBf (1.6µV/75 Ω)
S/N 50dB感度 ...... モノ；20.2dBf (2.8µV/75 Ω)
ステレオ；41.2dBf (31.6µV/75 Ω)
S/N比 (85dBf入力時) .... モノ；76 dB
ステレオ；72 dB
高調波歪率 .... ステレオ；0.5% (1kHz)
実効選択度 .... 65 dB(±400kHz)
ステレオセパレーション .... 40 dB(1kHz)
周波数特性 .... 30Hz〜15kHz(±1dB)
アンテナ .... PAL 75 Ω

AMチューナー部

受信周波数 .... 522kHz〜1,629kHz
実用感度（付属ループアンテナ） 350µV/m
選択度 .... 25 dB
S/N比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ(付属)

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力（電気用品取締法） .... 200 W
スタンバイ時消費電力 .... 1 W
電源スイッチ連動 .... 1 (100 W)
外形寸法
.... 420 (幅) × 158 (高さ) × 401 (奥行) mm
質量 .... 9 kg

付属品

リモコン 1
単3形乾電池（IEC R6P） 2
AMループアンテナ 1
FMアンテナ 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

59～62ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSX-D511
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

工場出荷時の設定

設定項目	初期値	参照ページ
スピーカーの設定	フロント、センター、サラウンド、全て小（S）	44ページ
サブウーファーの設定	ON	45ページ
クロスオーバー周波数	100Hz	45ページ
LFEアッテネータ	0dB	46ページ
フロントスピーカーまでの距離	3.0m	46ページ
センタースピーカーまでの距離	3.0m	47ページ
サラウンドスピーカーまでの距離	3.0m	47ページ
ダイナミックレンジコントロール	OFF	48ページ
デュアルモノの設定	ch1	48ページ
シグナルセレクト	AUTO	32ページ
スピーカー出力レベル	フロント 左/右（0dB）、センター（0dB）、 サラウンド 左/右（0dB）、サブウーファー（0dB）、 サラウンド バック左/右（0dB）	50ページ
表示部の明るさ調整（ディマー）	明るい	40ページ
入力	DVD	30ページ
リスニングモード	STEREO (DVD入力の場合のみSTANDARD)	33ページ
音量	ーーー（最小）	30ページ

思った通りに動かないときは

思った通りに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具も合わせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションに修理を依頼してください。

音が出ないスピーカーがあるときは、、

1 **テストトーンを出力してみる（➡50ページ）**

全てのスピーカーからテストトーン（ザーという音）が出力されていることを確認してください。 テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続やスピーカーの設定（➡45ページ）をもう一度確かめてください。

2 **それでも音が出ないときは、以下から62ページまでをご覧ください。**

電源が入らなかったり、切れるとき

症状	考えられる原因	対応
電源が入らない。	主電源ボタンがOFF（■）になっている。	主電源ボタンをON（▂）にする。
	保護回路が動作している。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。
本機使用中にOVERLOADと点滅表示し、自動的に電源が切れる。	音量を上げすぎている。	電源を入れ直し、音量を下げてみる。
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。
AMP ERRと点滅して自動的に電源が切れる。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し、修理を依頼してください（58ページ）。この症状が起きた後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。
DSP NGと表示され音が出なかったり操作が出来ない。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し修理を依頼して下さい。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	考えられる原因	対応
音が出ない。	入力切換が再生機器に合っていない。	再生機器の入力に合わせる。（➡30ページ）
	ミューティング状態になっている。	リモコンのMUTEボタンを押す。
	音量が下がっている。	音量（MASTER VOLUME）を調整する。
	ヘッドホンが差し込まれている。	ヘッドホンを抜く。
	接続コードが端子から外れている、または間違えて接続されている。	接続を確認する。（➡20〜29ページ）
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカーコードを接続し直す。
	端子や接続コードのピンプラグが汚れている。	汚れを拭きとる。
デジタル機器の音が出ない、またはノイズが出る。	DVDプレーヤーでデジタル出力設定をOFFにしている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。
	CD-ROMなどのデータ信号を入力している。	本機はデータ信号には対応していません。
フロントの片チャンネルから音が出ない。	左右のチャンネルレベルがかたよっている。	左右のチャンネルレベルを調整する。（➡50ページ）
		左右のスピーカーの接続を確認する。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	スピーカーの設定で「無し」に設定している。	スピーカーを正しく設定する。（「スピーカーの設定」（➡44ページ）をご覧ください）
	サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。	スピーカーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの調整」（➡50ページ）をご覧ください）
	サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている、または間違えて接続されている。	スピーカーを正しく接続する。（「スピーカーの接続」（➡22ページ）をご覧ください）
	2ch出力のリスニングモード（「ステレオ」など）を選んでいる。	マルチ出力のリスニングモード（「STANDARD」など）を選ぶ。（➡33〜34ページ）
	再生ソフトや放送自体に2ch分の音声しか入っていない。（ステレオ放送など）	入力信号の種類に関わらず、常にマルチチャンネルサラウンドで聴きたいときはリスニングモードをマルチ出力のリスニングモード（「STANDARD」など）にしてください。（➡33〜34ページ）
サブウーファーの音が出ない（または小さい）。	スピーカーやサブウーファーの設定でサブウーファーから音が出ない設定になっている。	サブウーファーの設定をPLSまたはONにするか、フロントスピーカーの設定をSMALLにする（➡44,45ページ）。
	サブウーファーのレベルが下がっている。	サブウーファーのレベルを上げる。（「スピーカー出力レベルの調整」（➡50ページ）をご覧ください）
	LFEアッテネーターの設定がOFFになっている。	0 dBまたは−10 dBに設定する。（「LFEアッテネーターの設定」（➡46ページ）をご覧ください）
	サブウーファーの電源が入っていない。	サブウーファーの電源をONにする。
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーを接続する（➡22ページ）。
	低音が含まれていないソフトを再生している。	低音が含まれていないソフトの場合、サブウーファーから音が出ない場合があります。
DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	デジタル接続が外れて、アナログ入力信号を再生している。（DIGITALインジケーター消灯）	機器を正しくデジタル接続する。（➡25ページ）
	使用しているDVDプレーヤーがDTS信号を出力していない。またはDTS信号の出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みになり、DTS信号を出力できるように設定する。
	デジタル出力レベル調整機能がついているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。	機器のデジタル出力レベルを上げる。
DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑える。

症状	考えられる原因	対応
音がひずむ	音量を上げすぎている。	マスターボリュームを下げる。
	アナログ入力信号のレベルが大きすぎる。	インプットアッテネータをONにする。（➡14ページ）
スピーカーから高音しか出ない。	スピーカーの設定が小（SMALL）に設定されている。	スピーカーの設定を大（LARGE）に設定する。（➡44ページ）
	低音域を再生する能力がないスピーカーを使っている。	スピーカーを変える。
発振している。（異常音が出たり映像が乱れる）	本機と接続機器間にループができている。	接続またはテレビの入力切換を変える。
96kHz/24bitのソフトを再生すると音が大きい。	ソフトによっては、収録されている音量レベルが大きい。	マスターボリュームを下げる。
映像が乱れたり、カセットデッキにノイズが入ったりする。	本機と干渉している。	本機またはカセットデッキの設置場所を変える。
デュアルモノの設定をしてもBSデジタル放送の二か国語音声が切り換わらない。	放送がステレオの二か国語放送などで、デュアルモノラル信号ではない。	デュアルモノの設定は入力信号がデュアルモノラルフォーマットのときのみ有効です。それ以外のときは、BSデジタルチューナー側(テレビ側)で切換操作を行ってください。
本機を通して録画したのに音が録音されていない。	入力選択した機器の音声がデジタルでしか接続されていない。	デジタル入力信号はVTR出力端子からは出力されません。入力選択した機器の音声をアナログでも接続してください。
テストトーンが出てこないスピーカーがある	接続がはずれている	正しく接続し直してください。
	スピーカーの設定（➡44ページ）で「無し」に設定されている	スピーカーの設定を正しく行ってください。

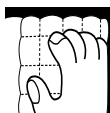
映像が出なかったり、乱れるとき

症状	考えられる原因	対応
入力切換を合わせても、映像が出ない。	入力機器およびテレビとの接続に、違うタイプのビデオコードを使用している。	同じタイプの映像ケーブルで入力機器およびテレビを接続する（19ページ）。
	入力機器の映像出力設定が正しくない。	入力機器の取扱説明書をお読みになり、正しい映像出力設定を行う。
	テレビとの接続をS映像端子と映像端子の両方でつないでいて、テレビ側でS映像入力を優先している。	テレビの取扱説明書をお読みになり、正しく接続する。
録画できない。	入力と出力の接続に違うタイプの映像端子を使用している。	同じタイプの映像端子を接続する。
映像が乱れる。	本機と干渉している。	本機の設置場所を変える。

インジケーターが点灯しなかったり、違うとき

症状	考えられる原因	対応
DD/DTSなどのソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。	再生しているプレーヤーの再生を開始する。
	再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。	再生しているプレーヤーの音声出力設定を正しく行う。
	再生しているソフトの音声設定が間違っている。	再生しているソフトの音声設定を正しく行う。
	DDやDTSで収録されていない部分を再生している。(メニュー画面など)	DDやDTSで収録された音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BSデジタル放送をデジタル接続で聴いているときに、MPEGインジケーターが点灯しない。	BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定でPCMを選択している。	チューナーの取扱説明書を読んで、MPEG(AAC)信号を出力するように設定する。

リモコンや設定、その他

症状	考えられる原因	対応
リモコン操作ができない。	リモコンの操作モードが違っている。	リモコンの操作モードを切り換える。
	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する（9ページをご覧ください）。
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30 °以内で操作する（9ページをご覧ください）。
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。
クロスオーバー周波数の設定ができない。	「スピーカーの設定」で「SMALL」に設定されているスピーカーがない。	「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンドのいずれかのスピーカーを「SMALL」に設定する。(➡44ページ)
表示が暗すぎたり、明るすぎたりする。	表示部の明るさ調整が適切でない。	表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡40ページ）
表示が操作時に点灯し、すぐに消える。	表示部の明るさがOFFになっている。	表示部の明るさ調整（ディマー）を行う。（➡40ページ）
設定が全てクリアされている	約1ヶ月以上、主電源をOFFにしたり電源コードを抜いたままにしておいた。	左記の状態では、各設定はクリアされます。再度設定してください。
CH SELECTボタンを押しても選択できないスピーカーがある	スピーカーの設定（➡44ページ）で「無し」に設定されている	スピーカーの設定を正しく行ってください。
	2ch出力のリスニングモードを選択している	マルチ出力のリスニングモードを選択してください。（➡33～34ページ）

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。
アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● パイオニア・カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　(日曜・祝日・弊社休日は除く)

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口 ： **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口 ： **0077-800-8181-33**

ファックス ： **03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*

カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● パイオニア部品受注センター

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　(日曜・祝日・弊社休日は除く)

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81095**
一般電話 ： **0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「思った通りに動かないときは」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。(沖縄県を除く)

● パイオニア修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00　(日曜・祝日・弊社休日は除く)

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話 ： **03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00　(土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く)

一般電話 ： **098-879-1910**
ファックス ： **098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZW/02A00001>
<XRA3006-A>